

科目名	絵画表現 I							
授業コード	1080	授業科目名	絵画表現 I				担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3~4	指定		
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース3年次必修科目）							
授業形態	通信授業 面接授業							

#### 【授業の概要と目標】

ここでは、造形要素としての線と面の働きをテーマとして学ぶ。どのようなモチーフであっても、それをキャンパスや紙の上に表現するには、線や面などの造形要素として捉えることが重要になってくる。

モチーフを漫然と見たまま描くのではなく、画面を構成する要素として捉えた場合、実際のモチーフにはない線や面が意識されてくる。そういった画面の自由な空間構築を通して単なる再現的な表現ではない、新たな表現の展開を通信授業と面接授業を通して模索する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「線と面」

1-1 身の周りにあるもので、線的、面的要素として捉えやすい無機的なものを中心にモチーフを組み立て、「線」による構成を主としてクロッキーする。

1-2 「1-1」と同じモチーフを「面」による構成を主としてクロッキーする。

1-3 「1-1」と同じモチーフから「線」と「面」による空間構成を意識してデッサンする。

##### ○面接授業課題「造形要素としての面と線の働き」

1-1 無機的なものを中心に組み合わせたモチーフを設置し、造形的要素としての「線」や「面」による空間構成を意識して、デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画表現 I・II 2024年度』の「絵画表現 I」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（デッサン）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科3年次編入学生を除く）。

○備 考

油絵学科各コース3年次必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下ごしらえ」の視聴を薦める。

科目名		絵画表現 II					
授業コード	1090	授業科目名	絵画表現 II			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、石原孟講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、畠山昌子講師、星晃講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

ここでは、造形要素としての明暗と色彩の動きをテーマとして学ぶ。対象として設定した空間には、光による明暗の変化とともに、モチーフ個々の形態や色彩が生み出すフォルムなどが、相互に関わり合いながら存在している。また、モチーフだけでなくモチーフと床や壁との関係や、モチーフ相互を取り巻く空間などにも注意を払うことが必要となる。これら様々な造形要素を自分が設定した空間から感じ取り、画面上で用いられる色彩と形態の関係を、色の使い方（絵具どうしの混色や画面上での配色など）に留意して描きながら、造形的な絵画空間を構築していく。

通信授業、面接授業ともに明暗の構成と色彩の構成をテーマとして制作する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信課題授業「明暗と色彩」

- 1-1 卓上の静物をモチーフに、光によって生ずる陰影の差と、モチーフ個々の色彩の明度差を同時に比較し、明暗による構成を主としてデッサンする。  
1-2 「1-1」と同じモチーフを明暗と色彩の関係を意識して、水彩または油彩で制作する。

##### ○面接授業課題「造形要素としての明暗と色彩の動き」

- 1-1 人物を配置し、色彩の構成を意識して、水彩または油彩で制作する。B2 画用紙または 20 号キャンバス。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具、油彩等。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画表現 I・II 2024年度』の「絵画表現 II」を参照。  
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（彩画）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科3年次編入学生を除く）。

○備 考

油絵学科各コース3年次必修科目。

「絵画表現Ⅰ」、「絵画表現Ⅱ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講が出来ない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下ごしらえ」の視聴を薦める。

科目名	複合的表現 I						
授業コード	1100	授業科目名	複合的表現 I			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、袴田京太朗教授、小林耕平教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース選択科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。

通信授業ではフォト・コラージュによる「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作とし、面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「フォト・コラージュ」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について 200 ～ 400 字で解説をする。

##### ○面接授業課題「内的空間の表出」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。2 種類のドローイング（A：音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら B：自分の内的世界を探りながら）を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品（写真、手紙、小物など）を加え、自己の内的世界を表現する。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『複合的表現 I・II 2024年度』の「複合的表現 I」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

##### ○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及びドローイング／午後：ドローイング

第 2 日 午前：ドローイング／午後：中間講評及び立体制作

第 3 日 午前：立体制作／午後：立体制作

第 4 日 午前：立体制作／午後：立体制作

第 5 日 午前：立体制作／午後：立体制作

第 6 日 午前：立体制作／午後：立体制作及び採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画表現Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科各コース選択科目。

#### 【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『複合的表現Ⅰ・Ⅱ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

なし

科目名	複合的表現 II						
授業コード	1110	授業科目名	複合的表現 II			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授、袴田京太朗教授、小林耕平教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース選択科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」をテーマとする。ここでは身の回りの場所や空間をよく観察して見ることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。このような経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。

通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とし、面接授業では平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「場所と観察と表現」

1-1 スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、配置しない場合の状態をクロッキーする。

1-2 「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから1点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。また、作品について200～400字で解説する。

##### ○面接授業課題「場所から生まれるもの」

1-1 「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『複合的表現 I・II 2024年度』の「複合的表現 II」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

##### ○面接授業

第1日 午前：前提講義およびドローイング／午後：ドローイングおよび場所選び

第2日 午前：制作／午後：制作（中間指導）

第3日 午前：制作／午後：制作（中間指導）

第4日 午前：制作／午後：制作（中間指導）

第5日 午前：制作／午後：制作および記録集制作

第6日 午前：記録集制作／午後：採点・講評・撤去作業

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「複合的表現Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

油絵学科各コース選択科目。

#### 【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『複合的表現Ⅰ・Ⅱ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

なし



科目名	絵画Ⅲ						
授業コード	1120	授業科目名	絵画Ⅲ	担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師		
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに人物や自然を対象とした制作を行う。人間や自然は、最も普遍的なテーマであり、絵画の歴史とともに描かれてきた。対象をじっくりと観察し、そこで得られた発見を基に制作を進め、それぞれの表現を探る。通信授業では身近な人物や自然を取材し、観察して得られた様々な発見を通して、表現に結び付けていく。面接授業では人物と植物の組み合わせで制作し、表現の多様性を知る。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

「観察と表現」

- 1-1 「気になる人」をクロッキーまたはドローイングをする。
- 1-2 「1-1」を基に、エスキースを制作する。
- 1-3 「1-2」で制作したエスキースを基に、油彩またはアクリルで制作する。

##### ○面接授業課題

「観察と表現」

- 1-1 人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、クロッキーまたはドローイングをする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙の大きさのエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー、ドローイングを複数枚とエスキースを最低1枚提出。
- 1-2 エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。支持体は 30 号キャンバス。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「絵画Ⅲ」を参照。  
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

##### ○面接授業

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
- 第2日 午前：制作／午後：制作
- 第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
- 第4日 午前：制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
- 第5日 午前：制作／午後：制作
- 第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 【履修条件及び履修年次】

○履修年次  
3年次～

○履修条件  
「絵画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（絵画コース3年次編入学生を除く）。

○備 考  
油絵学科絵画コース3年次必修科目。  
「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

## 【教材等】

○教科書  
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）  
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）  
『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書  
『絵画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

## 【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画Ⅳ						
授業コード	1130	授業科目名	絵画Ⅳ	担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師		
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。絵画における空間表現の変遷は、奥行きのある三次元空間はもとより、あくまで平面であるとする考え方、画面自体が現実の立体物であるという捉え方、そして時間をも含む空間など、さまざまな表現が試みられてきた。この科目では、それぞれの求める空間がどのようなものなのか、描く事で確認することが目標で、その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

「空間と構成」

- 1-1 植物と室内をクロッキーまたはドローイングをする。
- 1-2 「1-1」を基に、植物と室内を組み合わせたエスキースを制作する。
- 1-3 エスキースを基に、植物と室内を組み合わせた油彩またはアクリルで制作する。

##### ○面接授業課題

「空間と構成」

- 1-1 人物（ヌード）の固定ポーズ、短時間ポーズ、ムービングなどを通して、さまざまな取材をする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙の大きさに構成したエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー等を複数枚とエスキースを最低1枚提出。
- 1-2 エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。30～40号程度キャンバス。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「絵画Ⅳ」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

##### ○面接授業

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー・エスキース）
- 第2日 午前：制作／午後：制作
- 第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
- 第4日 午前：制作／午後：制作（油彩又はアクリル）
- 第5日 午前：制作／午後：制作
- 第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

#### 【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画 V						
授業コード	1140	授業科目名	絵画 V			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「色彩とマチエール」をテーマに制作する。明暗と色彩は切り離すことができない関係にあるが、絵画表現においては、明暗と色彩は外界と内面、物質と非物質など、対立する関係の表現に適している。それぞれが求める絵画空間に必要な要素としての明暗と色彩の働きを知り、制作する上で表現に結び付けることを試みる。また、絵具をはじめとするマチエールの働きも理解する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

「色彩とマチエール」

1-1 身の回りの複数の器物を中心に静物を組み、明暗を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。明暗（陰影）は立体感や存在感、奥行きのような、物質的な存在を表すには有効であるが、色彩はむしろ感覚や感情などの内的世界を表しやすい。これを突き詰めれば、画面上での色彩や絵具としての物性（マチエール）が重要な役割を担う表現にもなる。この課題では色彩と絵具自体の物質感（マチエール）を意識した表現を考えて制作する。

##### ○面接授業課題

「色彩とマチエール」

1-1 組まれた静物の色彩とマチエールを意識した平面作品を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。また、絵具以外の素材を使用しても良い。30～40号程度1点提出。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「絵画Ⅴ」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

##### ○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次  
3年次～

○履修条件  
「絵画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考  
油絵学科絵画コース3年次必修科目。  
「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

#### 【教材等】

○教科書  
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）  
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）  
『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書  
『絵画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下ごしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画 VI							
授業コード	1150	授業科目名	絵画 VI				担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定		
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース4年次必修科目）							
授業形態	通信授業 面接授業							

#### 【授業の概要と目標】

「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」  
この課題を通して先ずはその足掛かりとして描いてみたいものを「見つける」ことから始める。それが直接テーマへと繋がるのか、またはそこから何かを展開するのか、実際に描き、試行錯誤しながら自らの表現方法を追求することを体験する。描くことに始めからテーマがあるのではなく、自分にとって新たな試みに挑戦し、表現の方向性を探りながら試行錯誤をすること。この体験こそが次への表現に結び付きようやくテーマが見出されることを知る。卒業制作に向かうための準備段階と位置づけ、通信授業、面接授業を通して各自の表現方法を探り、試行錯誤する体験や追求から制作の骨格を発見し、その中にテーマが隠れていることを学習する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

- 「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
- 1-1 人、物、風景、空間、印刷媒体、写真などから「描いてみたい」と感じるものを見つけ、クロッキーをしながら取材をする。
  - 1-2 「1-1」を基に構成的なドローイングとエスキースを制作する。
  - 1-3 「1-2」を基に表現の可能性を試みながら平面作品を制作する、また、テーマやモチーフについて考えたことや感じたことを400字程度にまとめる。

##### ○面接授業課題

- 「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
- 1-1 複数枚のドローイングと大エスキース（B2サイズ以上）を最低1枚制作する。描画材は自由。制作したすべてのエスキースを提出。
  - 1-2 「1-1」で制作したエスキースを基に、油彩又はそれに準ずる素材で制作する。支持体はキャンバスほか自由で30～40号の大きさ。1点提出。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画VI・VII/卒業制作 2024年度』の「絵画VI」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

○面接授業

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作
- 第2日 午前：制作／午後：制作
- 第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
- 第4日 午前：制作／午後：制作（平面作品）
- 第5日 午前：制作／午後：制作
- 第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

絵画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備考

油絵学科絵画コース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

- 『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
- 『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
- 『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

- 『絵画VI・VII／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。



科目名	絵画 VII						
授業コード	1160	授業科目名	絵画 VII			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「自主制作」。造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につなげるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。

通信授業、面接授業を通して、各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「自由制作」

1-1 卒業制作を念頭においた「1-2」のための構想、エスキース、アイデア、テーマ、素材、写真、雑誌の切り抜き、メモ等あらゆるものを F10 号スケッチブックに書き込み、貼り込んだ「制作ノート」を作成する。

1-2 「1-1」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作の足掛かりとなる実験的な自主制作を行う。

##### ○面接授業課題「自由制作」

1-1 通信授業課題で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作を視野に入れ、さらに発展させたエスキースを制作する。支持体は自由（画用紙、木炭紙等）で B1 または倍判木炭紙大。描画材は自由。

1-2 「1-1」のエスキースをもとに自主制作を行う。支持体は自由で 40～50 号程度、描画材は自由。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2024年度』の「絵画Ⅶ」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（制作ノート・エスキース制作）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評

第4日 午前：制作／午後：制作（平面作品）

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

「絵画VI」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

絵画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備考

油絵学科絵画コース4年次必修科目。

「絵画VI」を同時に履修する場合は、「絵画VI」のスクーリングを先に受講すること。

スクーリングに「制作ノート」を持参すること。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画VI・VII／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	卒業制作						
授業コード	1810	授業科目名	卒業制作			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科絵画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

卒業制作は通信教育課程での基礎的な造形学習の総まとめであると同時に、卒業後の創造活動を方向付けるスタート地点でもある。そのためにも結果を恐れず、それまでの学習体験を活かし、各々の資質にあった表現に向けての、精一杯悔いのない制作が望まれる。また、デッサンやエスキース等を積み重ねながら、テーマを絞り込み、それを画面にどのように組み立てて行くか、しっかりと手順を踏んで制作することも大切である。

#### 【課題の概要】

自主制作（絵画作品）2点を制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。支持体は木枠やパネルなどの丈夫なもので、サイズは80～100号（長辺162cm以内）。壁面に取り付け可能で、厚さ15cm以内とする。描画材は油彩等、その他自由。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『絵画VI・VII/卒業制作 2024年度』の「卒業制作」、教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現—絵画からの展開—』を参照し、制作を進める。

##### ○面接授業

卒業制作における中間指導として、制作途中の作品を基にした指導を中心に、エスキース指導、制作工程計画、技術的問題、各種絵画的対処法等の指導を受けながらの制作。

- ・前半 第1～2日 午前：制作及び中間指導／午後：制作及び中間指導
- ・後半 第3～4日 午前：制作及び中間指導／午後：制作及び中間指導

#### 【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・ 絵画コースに在籍していること。
- ・ 絵画コース3年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。
- ・ 「絵画VI」、「絵画VII」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科絵画コース4年次必修科目。

面接授業の受講条件は以下のとおり。

今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

#### 【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画VI・VII／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	日本画Ⅲ						
授業コード	1170	授業科目名	日本画Ⅲ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

古来の作品の鑑賞も含め古典模写をおこなうことにより、日本画の素材がどのように扱われ使用されてきたかを探り、その中にある様々な技法や様式を再現することで、基本としての日本画の素材を扱う方法や描法や工程の研究をする。

通信授業では、線の美しさや勢いのある線の練習をして筆力を養う。面接授業では、鳥獣戯画等の絵巻物を模写することで、各種の線描法と上げ写し法を学び、彩色模写では、障壁画等に見られる多種多様な技法や技術、工程法などを知り、地作りから仕上げまでをおこなう。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「墨で描く」

筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドーサ引き）などを使い分けたくさんの線描をおこなう。又、筆を使った線描法で描く。

##### ○面接授業課題「古典模写」

古典の模本をもとに線描による模写、彩色による模写をする。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「日本画Ⅲ」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

##### ○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作・講評

第4日 午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作

第5日 午前：講義及び制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「日本画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（日本画コース3年次編入学生を除く）。

##### ○備考

油絵学科日本画コース3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が高まるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画Ⅲ～Ⅴ 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画Ⅳ						
授業コード	1180	授業科目名	日本画Ⅳ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

通信授業では、身近な人をモデルにイメージを捉えることを重点に学び、面接授業では、デッサンと制作を通して人を描くための下図の作り方、人体と空間の関係、構成等を学び、更に、独自の表現をするための岩絵具による色彩の研究、支持体、マチエール等、日本画の様々な技法を研究して人体制作をする。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「人物を描く」

身近な人、又は自己をモデルに次の条件でクロッキー及びデッサンをする。又、デッサンをもとに日本画制作をする。

- ・人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
- ・身近な人や自己をモデルに身体デッサンをする。
- ・クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

##### ○面接授業課題「身体を描く」

人体デッサンをもとに30号以上の日本画制作をする。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「日本画Ⅳ」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

##### ○面接授業

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（デッサン）  
 第2日 午前：制作（デッサン）／午後：制作（デッサン）  
 第3日 午前：制作（準備・下図）／午後：制作（下図）  
 第4～5日 午前：制作／午後：制作  
 第6日 午前：制作／午後：制作・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「日本画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

油絵学科日本画コース3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

#### 【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画Ⅲ～Ⅴ 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし



科目名	日本画 V						
授業コード	1190	授業科目名	日本画 V			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

和紙、絹本等、様々な基底材の研究を通して日本画表現を学ぶ。静物や自由な発想によるテーマをもとに描画材との関係と幅広い独自性のある表現法を知り体感することで、素材の重要性を知る。

通信授業では、和紙の特性を知り、染める、加工する等の基底材を考察したものを利用して制作する。面接授業では、基本としての絹の扱い方を学び、制作する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「素材と技法」

天然染料としての草木などや化学染料を利用して和紙を染める。更に、それを基底材とし、静物などをモチーフに日本画制作をする。

- ・身の回りにある染料を用いて和紙を染める。
- ・染めた和紙を使い、日本画制作をする。

##### ○面接授業課題「絹に描く」

尺八サイズの絹に日本画制作をする。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「日本画Ⅴ」、教科書『日本画・表現と技法』の「自由に描く」、「現代日本画の発想」をもとにした授業。

##### ○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「日本画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

油絵学科日本画コース 3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が高まるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	日本画 VI						
授業コード	1200	授業科目名	日本画 VI			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠（＝形象化）と構成について学ぶ。日本画素材の特徴のひとつである金箔、銀箔のあかし方等の技法や扱い方を知り、制作を通して箔を使用した絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。

通信授業では、デッサン、下図等をもとにした画面上での構成、イメージによる造形、自由な展開への試みを行う。面接授業では、箔を扱い取り入れた描き方、描くことで発生する独自の形と構成を研究する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「意匠研究」

対象物を形象化、又、制作工程を意識した日本画制作をする。

- ・制作を意識したデッサン、下図及び制作日記を制作する。
- ・制作工程を意識した日本画制作をする。

##### ○面接授業課題「自己表現研究」

素材と意匠を考え、構成による独自の形で30号以上の日本画制作をする。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『日本画VI・VII／卒業制作 2024年度』の「日本画VI」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

##### ○面接授業

第1日 午前：前提講義（箔講義）及び制作／午後：制作（下図研究）

第2～5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

日本画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

##### ○備考

油絵学科日本画コース4年次必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画VI・VII／卒業制作 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画 VII						
授業コード	1210	授業科目名	日本画 VII			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

自由なテーマで日本画表現を学ぶ。個々にあったテーマ、素材や表現方法を探り、自己のオリジナルな表現へと展開していく。独自の表現、描きたいものは何か、ということを常に問題意識として持ち、テーマの内容と日本画の素材である和紙と布との必然性を考えながら、制作する上での確かな描写力、技術力、表現力を追求する。

通信授業、面接授業ともに、卒業制作取り組み前の科目として自己の課題の研究に取り組む。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「自由制作」

自己の制作をする為の資料として、各自それぞれの手法でデッサンをし、又は素材の引用などを行い下図やアイデア画を描く。さらにそれをもとに日本画制作をする。

##### ○面接授業課題「自由制作研究」

「自由に描く」をテーマに、自己の課題を考え、高い完成度を目標に 50 ～ 100 号の日本画制作をする。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『日本画VI・VII/卒業制作 2024年度』の「日本画VII」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

##### ○面接授業

第1日 午前：前提講義（裏打ち講義）及び制作／午後：制作（下図研究）

第2～5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

「日本画VI」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

日本画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

##### ○備考

油絵学科日本画コース4年次必修科目。

「日本画VI」を同時に履修する場合は、「日本画VI」のスクーリングを先に受講すること。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画VI・VII/卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1820	授業科目名	卒業制作			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科日本画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

日本画の素材を使い自己の表現したいものをテーマに取り組む。学習の成果で得たものを十分出し、新しい日本画の可能性を示唆するような姿勢で、自己にとっても今後の指針を示せるような制作をおこなう。

#### 【課題の概要】

日本画の素材を使つての作品制作2点とする。通信授業・面接授業を通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。描画材は日本画絵具。基底材は自由で、サイズは80～100号。壁面取り付け可能な木製パネルとする。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『日本画VI・VII/卒業制作 2024年度』の「卒業制作」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

##### ○面接授業

卒業制作における中間指導と、後半は完成に向けての指導をおこなう。

- ・前半 第1日 午前：前提講義及び中間指導／午後：中間指導
- 第2日 午前：中間指導／午後：中間指導及び中間講評
- ・後半 第3日 午前：前提講義及び制作／午後：制作
- 第4日 午前：制作／午後：制作及び中間講評

#### 【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・日本画コースに在籍していること。
- ・日本画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。
- ・「日本画VI」、「日本画VII」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

油絵学科日本画コース4年次必修科目。

面接授業の受講条件は以下のとおり。

今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

##### ○学習指導書

【その他】

なし



科目名	版画Ⅲ						
授業コード	1220	授業科目名	版画Ⅲ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。

通信授業では、「自然」をテーマにして、各自が自由な解釈により、描く行為（ドローイング）を基に、版表現に結び付ける。また、版画作品は4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）のうちから1版種を選び学習する。版画制作のためのドローイングの重要性を認識するとともに、素材（版材、紙、インクなど）との関わり、技法の特性等を充分理解し、版技法をどの様に自己の表現に結びつけるかを考察する。面接授業では、「版画Ⅰ」と同様の「木版」「リトグラフ」を開講する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「自然」

- 1-1 「自然」をテーマに指定された順番でドローイングする。  
 1-2 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、課題1-1のドローイングをもとに版画作品を制作する。

##### ○面接授業課題「基本技法の習得」

- 1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選ぶこと。  
 ・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm  
 ・「リトグラフ」イメージサイズ：28cm×40cm程度

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「版画Ⅲ」を参照して、制作を進める。  
 教科書『新版 版画』第2章「モノタイプ」を参照。

##### ○面接授業

「木版」または「リトグラフ」（版画Ⅰにて選択していない方の版種を選択）

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作  
 第2日 午前：制作／午後：制作  
 第3日 午前：制作／午後：制作  
 第4日 午前：制作／午後：制作  
 第5日 午前：制作／午後：制作  
 第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（版画コース3年次編入学生を除く）。

○備 考

油絵学科版画コース3年次必修科目。

スクーリングは「版画Ⅰ」で受講していない版種を選択すること。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

○学習指導書

『版画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	版画Ⅳ						
授業コード	1230	授業科目名	版画Ⅳ			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。

通信授業では、「空間」をテーマにして、各自が自由に解釈し版表現に結び付ける。平面上にできる（絵画）空間は、奥行きのある空間、平面的な空間、錯綜した空間等、様々である。ここでは各自の表現としての空間とはどのようなものなのかを版を通して探っていく。面接授業では、「版画Ⅱ」と同様の「銅版」「スクリーンプリント」を開講する。「版画Ⅱ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。ここで4版種すべてを修得したことになるので、改めて各版種の特性とは何かを考えてみる。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「空間」

- 1-1 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、「空間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。
- 1-2 自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

##### ○面接授業課題「基本技法の習得」

- 1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。
- ・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm
  - ・「スクリーンプリント」イメージサイズ：30cm×42cm 程度

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「版画Ⅳ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

##### ○面接授業

「銅版」または「スクリーンプリント」（版画Ⅱにて選択していない方の版種を選択）

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作
- 第2日 午前：制作／午後：制作
- 第3日 午前：制作／午後：制作
- 第4日 午前：制作／午後：制作
- 第5日 午前：制作／午後：制作
- 第6日 午前：制作／午後：採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「版画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

油絵学科版画コース 3 年次必修科目。

スクーリングは「版画 II」で受講していない版種を選択すること。

「版画III」、「版画IV」、「版画V」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画V」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

○学習指導書

『版画III～V 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	版画 V						
授業コード	1240	授業科目名	版画 V			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

自己の表現を見つめて版や材料の特性を学び、「版画VI」以降の取り組みの中で専門性と造形表現を高める版種を明確にする。

通信授業では、「時間」をテーマにして、各自が自由な解釈を加え、版表現を試みる。「版画IV」までの履修によって、4 版種の基本技法の習得を終えたことになる。ここからは積極的に表現方法を見出し、充実した研究制作が望まれる。面接授業では、各自が選択した版種の専門技法や特殊な製版などの実習を行い、基本的実習とは異なる視野を与えながら各自の表現を追求する（面接授業は開講する時期によって実習の内容が変わる）。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「時間」

- 1-1 4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1 版種を選択し、「時間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。
- 1-2 自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

##### ○面接授業課題「版種の専門技法の実習」

- 1-1 4 版種の中から1 版種を選択し、自由テーマで制作する。版種ごとに行う専門性を高める実習を通して、以降の研究課題、表現内容、選択版種などを明確にする。
- \* 4 年次の学習を視野に入れた版種を選択すること。
- \* スクーリングの実習内容は開講時期により異なる（下記参照）。

##### 【夏期スクーリング】

- ・木版 [油性・水性プレス機刷り]
- ・リトグラフ [感光法 (PS 版)]
- ・銅版 [メゾチント]
- ・スクリーンプリント [油性インク刷り (ブロッキング法)]

##### 【冬期週末スクーリング】

- ・木版 [木口木版]
- ・リトグラフ [石版]
- ・銅版 [フォトエッチング]
- ・スクリーンプリント [写真を使った作品制作]

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』の「版画Ⅴ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

##### ○面接授業

「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」（1 版種選択）

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作及び指導
- 第2日 午前：制作及び指導／午後：制作及び指導
- 第3日 午前：制作及び指導／午後：制作及び採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次  
3年次～

○履修条件  
「版画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考  
油絵学科版画コース3年次必修科目。  
「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは「版画Ⅰ～Ⅴ、版画研究Ⅰ・Ⅱ」で基本技法を習得した版種を選択すること。

**【教材等】**

○教科書  
『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

○学習指導書  
『版画Ⅲ～Ⅴ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

**【その他】**

なし

科目名	版画 VI						
授業コード	1250	授業科目名	版画 VI			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

これまで幾つかのテーマについて、課題の中で取り組んできたが、この科目からは通信授業、面接授業ともに自由テーマによる制作となる。自己のテーマと表現に見合った研究課題を設定し、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択する。制作過程で技術的修練を積み重ねることも重要だが、技法や材料への興味を越えて、版の特性を意図的に用いる具体的な取り組みが求められる。そこで、なぜ版を使うのか、如何に自らの表現の中で版を活かすのか、改めて考える機会にもなるであろう。それぞれの主題を決めるところから、版材、紙などの材料を研究し、自己の表現へと結びつけていくことを学習する。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択し、制作する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「自主制作 1」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作に予定している 1 版種を選択し、ドローイング、版画作品を制作する。

##### ○面接授業課題「自由テーマによる制作」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

#### 【授業計画】

制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

##### ○通信授業

学習指導書『版画VI・VII/卒業制作 2024年度』の「版画VI」、教科書『新版 版画』の第 2 章、第 4 章を参照し、制作を進める。

##### ○面接授業

「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」（1 版種選択）  
 第 1 日 午前：前提講義及びドローイング指導/午後：制作（個別に指導）  
 第 2 日 午前：制作/午後：制作  
 第 3 日 午前：制作/午後：制作  
 第 4 日 午前：制作/午後：制作  
 第 5 日 午前：制作/午後：制作  
 第 6 日 午前：制作/午後：制作及び採点・講評  
 ＊第 1 日に卒業制作についてのオリエンテーションを行う予定。

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

版画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

○備考

油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

○学習指導書

『版画VI・VII／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし



科目名	版画 VII						
授業コード	1260	授業科目名	版画 VII			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

各自の学習プランを基に、独自の版表現の確立を目指し、テーマや表現手法をより明確に示す研究が求められる。プランやテーマなど、この先にある「卒業制作」の軸となる部分が不明確な場合はここで再度、熟考しなければならない。美術として優れた表現とはどのようなものなのか。版を介して何を表現しようとしているのか。様々な課題に向かって各自が真剣に取り組み、確認作業をしていくことであろう。それは表現者としての基礎であり、最も重要な姿勢である。これまで積み重ねてきた制作をもとに、卒業制作を見据えた心の準備と、充実した制作を望む。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」で選択する版種を選び制作する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題「自主制作 2」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、ドローイング、版画作品を制作する。

##### ○面接授業課題「自由テーマによる制作」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書『版画VI・VII/卒業制作 2024年度』の「版画VII」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

##### ○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及びドローイング指導/午後：制作（個別に指導）

第 2 日 午前：制作/午後：制作

第 3 日 午前：制作/午後：制作

第 4 日 午前：制作/午後：制作

第 5 日 午前：制作/午後：制作

第 6 日 午前：制作/午後：制作及び採点・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

「版画VI」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

版画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

##### ○備考

油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

「版画VI」を同時に履修する場合は、「版画VI」のスクリーニングを先に受講すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

**【教材等】**

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

○学習指導書

『版画VI・VII／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

**【その他】**

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1830	授業科目名	卒業制作			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（油絵学科版画コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

版画コースの教育課程においては、技術研究、材料研究を行い、各自のテーマに沿った版表現を考察してきた。「卒業制作」では、これをさらに深めてオリジナリティを導き出すことに取り組み、これまでの学習成果を十分に出し切る制作が求められる。総まとめであると同時に卒業後の創作の基盤になり、活動展開を方向付ける重要な科目でもある。結果を恐れず、これまでの学習体験を活かし、各々の資質に合った表現に向けて、精一杯悔いのない制作が望まれる。

#### 【課題の概要】

4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、版画作品5点又はそれに相当するものを制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。

#### 【授業計画】

○通信授業  
学習指導書『版画VI・VII／卒業制作 2024年度』の「卒業制作」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

○面接授業  
卒業制作における中間指導として、模擬展示によるドローイング指導、制作工程計画、技術的問題、展示形態等の指導を受けながらの制作。

- ・前半 第1日 午前：下図を用いた模擬展示及び中間講評／午後：制作  
第2日 午前：制作／午後：制作
- ・後半 第3日 午前：制作及び中間指導／午後：制作  
第4日 午前：制作／午後：制作

#### 【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次  
4年次

○履修条件  
以下のすべての条件を満たすこと。  

- ・ 版画コースに在籍していること。
- ・ 版画コース3年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。
- ・ 「版画VI」、「版画VII」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考  
油絵学科版画コース4年次必修科目。  
課題制作に必要な設備・機材を使用できる環境にあること。  
面接授業の受講条件は以下のとおり。  
今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

#### 【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

○学習指導書

『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	工芸工業デザイン基礎 I						
授業コード	1270	授業科目名	工芸工業デザイン基礎 I			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、山本博一講師、萩原千春講師、徂徠友香子講師、朝比奈ゆり講師、永井賢講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

この科目は、工芸工業デザイン学科において最初に学習する造形専門科目となっている。学科の必須科目ではあるが、スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ課題に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスにはこの科目から各素材別課題に取り組む。つまりここから、各自が目指す専門の学習に入る。

スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系の同じ課題とは、スペースと生活環境、いいかえれば空間とモノ、それぞれの立場で同じ題材に取り組むことをいう。そうすることで、各自が、両者の関係性について包括的に考え、広い視野を獲得することを期待する。

#### 【課題の概要】

##### ○スペースデザインコース / 生活環境デザインコースプロダクトデザイン系

工芸工業デザイン基礎Iでは、通信課題と面接授業を通じて屋外に存在するモノや空間と人々の生活がどのようにに関わりをもつのか、ヒトとモノの関わりから発生するコトとその周囲を含めて「シーン」と捉え、現状の観察から想像し提案に至るまでのプロセスを体験的に学ぶ。

通信課題では、身近な屋外の「腰掛けるモノ」とその周囲を対象にデザインサーベイ（調査）を行い、調査結果をレポートとしてまとめる。面接授業内では、屋外の生活の場となるミニパークを対象に机上調査、デザインサーベイ（調査）を行い、調査から得たことと自身の記憶を背景とした場に相応しい「シーン」の提案をおこなう。

##### ○生活環境デザインコース

###### クラフトデザイン系

###### ・テキスタイルクラス

面接授業において、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。触覚とサーフェイスというテーマのもとに、素材をイメージ化し、織りによるテクスチャー表現研究を行う。通信授業では、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。素材を無彩色、及び有彩色によるイメージ化をし、テキスタイルとしての使用例を提案する。

###### ・陶磁クラス

通信授業では板づくり技法による器物と装飾に関する調査をし、まとめる。それを参考にして、板づくり技法と印による装飾を施した日常的な用途の器物のアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基に、さらにデザインを検討して板づくり技法と印による器物を制作する。

\* 課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎 I・II 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

##### ○面接授業

各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。

スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではミニパークをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。

## ○通信授業

・生活環境デザインコースプロダクトデザイン系・スペースデザインコース  
学習指導書をよく確認し、制作すること。

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス  
学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス  
面接授業をふまえ、デザイン作業を完成させ提出する。  
詳細は面接授業最終日に説明する。

## 【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価。

## 【履修条件及び履修年次】

### ○履修年次

3年次～

### ○履修条件

「プロダクトデザインI・II」または「インテリアデザインI・II」の単位を修得していること（工芸工業デザイン学科3年次編入学生を除く）。

### ○備考

工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目。

クラフトデザイン系の素材別クラスを選択する場合は、1・2年次において素材別基礎実習I・IIにおける、同素材実習を履修していることが望ましい。

## 【教材等】

### ○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

横溝健志、小石新八 編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

### ○学習指導書

『工芸工業デザイン基礎I・II 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

## 【その他】

スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系はグループワークと学外実習等おこなう場合がある。

科目名	工芸工業デザイン基礎 II						
授業コード	1280	授業科目名	工芸工業デザイン基礎 II			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、萩原剛教授、渡辺衆講師、萩原千春講師、馬場美次講師、怡田千枝講師、竹内優美講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

この科目は、工芸工業デザイン基礎 I に引き続き学科共通の造形専門科目となっている。学科の必修科目ではあるが、工芸工業デザイン基礎 I と同様にスペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ題材に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスは各素材別課題に取り組む。

#### 【課題の概要】

スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系はインターフェイスをテーマに具体的な機器や空間を事例に研究を深めデザインの提案を行う。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系は素材別にそれぞれの課題とする。

##### 〈スペースデザインコース〉

面接授業では、空間のインターフェイスをテーマとした空間と人の出合いの場について考察する。授業の課題は、エキシビジョン（見本市）の企業のブースデザインの設計計画を実習する。

##### 〈生活環境デザインコース〉

###### プロダクトデザイン系

面接授業において、機器やサービスのデザインをユーザーインターフェイスの観点から調査分析する。使用シーンにそって問題点や顧客要求を明確にする。その上でラフモデルによるデザイン立案と操作の評価を実施する。通信授業では面接授業で作成した提案を修正し再提案する。対象は「音楽・音声放送を一对多で楽しむ機器（ラジオ）」で、web 等の技術を活用する新サービスも是とする。

###### クラフトデザイン系

###### ・テキスタイルクラス

面接授業において、触覚のビジュアル化を体得する為のシルクスクリーン捺染の実習を行い、レポート効果およびペーパープランにおける表現技法を学習する。

通信授業では、面接授業で実習したパターンの連続性による色彩効果を基に、色彩の面積比を考え、ストライプの分析研究を行う。

###### ・陶磁クラス

通信授業において、ロクロ成形による製品の調査をしてまとめる。それを基に飯碗を制作するためのアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基にさらにデザインに検討を加え、ロクロ成形による飯碗を制作する。

\* 課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎 I・II 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

スペースデザインコース、生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系

予習→面接授業→通信授業

## ○面接授業

各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。

スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではインターフェイスをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。

※ 生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は学習指導書をよく確認し、予習を行い、事前調査表を初日に持参すること。

## ○通信授業

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系陶磁クラス

学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。

・スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系テキスタイルクラス

面接授業をふまえ、それぞれのコース、クラスごとにデザイン作業を完成させ提出する。

詳細は面接授業最終日に説明する。

## 【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価。

## 【履修条件及び履修年次】

### ○履修年次

3年次～

### ○履修条件

工芸工業デザイン基礎Ⅰの単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

### ○備考

工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目。

## 【教材等】

### ○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

牧野良三 編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

横溝健志、小石新八 編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中秀徳 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

### ○学習指導書

『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

## 【その他】

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は、グループワーク及び学外実習がある。



科目名	生活環境デザイン論						
授業コード	1290	授業科目名	生活環境デザイン論			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、萩野美有紀講師、渡辺衆講師、野田昇一郎講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

私達の生活環境を形成するさまざまな道具や機器のデザインは、便利さや快適さを追求するだけでなく、省資源、リサイクル、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点に立った発想が求められるようになった。この科目では、これらの要件に敏感な生活者の視点に立って、人間とモノ、そして使われる環境との関係を多角的に捉え、それらのよりよい関係の在り方を考察したい。

授業は、面接授業において、生活環境に関わるプロダクトデザインの変遷を技術の進化と文化の変化から見た歴史的側面から、現在の状況をスライドによって俯瞰することから始める。また、生産の現場や、関係する施設や展示会などの見学等を折り込み、多角的にデザインを考察する。通信授業では、面接授業で触発されたテーマをもとに実製品のデザインを体験・考察し、その分析とをレポートする。

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業

生活を取り巻くプロダクト製品のデザインのあり方について考える。

##### ○通信授業

製品デザインの分析

\* 課題については学習指導書『生活環境デザイン論 2023年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

面接授業→通信授業

##### ○面接授業

第1日 前提講義

バリアフリーの体験

近代椅子コレクションの見学

第2日 前提講義、プロダクトデザインの概観

東京都庭園美術館(アールコデ装飾)の見学

第3日 自らの生活を振りかえりプロダクトとの関係考察

プロダクトデザイン分析

第4日 プロダクトデザイン分析と報告、まとめ

##### ○通信授業

面接授業をふまえた取り組みが出題されるので、面接授業を先に受講すること。詳細は学習指導書による。面接授業最終日に説明がある。

#### 【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「プロダクトデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（生活環境デザインコース3年次編入学生を除く）。

##### ○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 3 年次必修科目。  
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

**【教材等】**

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）

○学習指導書

『生活環境デザイン論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

**【その他】**

グループワーク及び学外実習がある。

科目名	生活環境計画 I						
授業コード	1300	授業科目名	生活環境計画 I			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、萩原千春講師、渡来一彦講師、渡辺衆講師、大蔵紗也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行います。  
 プロダクトデザイン系クラスでは、現代の生活で避けては通れない「地球温暖化」をテーマとし、リサーチを通じて各自が環境問題に対して「提案できること」を考え、プロトタイプ化やプレゼンテーションに至るプロセスを相互に学びあうことを目標とします。  
 クラフトデザイン系は、テキスタイルクラスにおいては花をモチーフとしたインテリアファブリックの提案を、陶磁クラスにおいては陶土によるユニットタイトルの提案を行います。

#### 【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とします。

##### ○面接授業および通信授業課題

###### プロダクトデザイン系

地球温暖化をテーマとし「暑さをしのぐ」プロダクトや空間の提案を行います（検討の結果、提案内容がサービスやアプリになっても構わない）。  
 面接授業ではリサーチを通じた構想、プロトタイプ化、プレゼンテーションまでのプロセスを一通り行い、そのプロセスを相互に学びあいながら進めます。  
 通信授業では面接授業で提案したデザインを再検証して。コンセプト、図面、レンダリング、モデルの写真等をブラッシュアップしたものを A3 レポートにまとめて提出します。

###### クラフトデザイン系

###### ・テキスタイルクラス

面接授業において、花をモチーフとしたインテリアファブリック製品のデザイン提案を行います。シルクスクリーンプリント技法を理解し、リポート効果と配色計画を学習します。

通信授業では、インテリアブランドの市場調査を行い、プリント生地 of 模写とパターンデザインを制作します。

###### ・陶磁クラス

通信授業においては、各地の建造物や壁面に利用されている陶磁器の調査研究を行い、それを基にした、レリーフ表現によるユニットタイトルのアイデアスケッチを行います。面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて、石膏型を用いて陶土によるレリーフ表現のユニットタイトルを制作します。

\* 課題については学習指導書『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### プロダクトデザイン系

面接授業→通信授業

##### クラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

##### クラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

○面接授業

#### プロダクトデザイン系

前提講義の後、リサーチとグループセッション、アイデアの検討展開、プロトタイプ作成と検証等、一般的なデザインプロセスを進めプレゼンテーションまでを行います。

#### クラフトデザイン系 陶磁クラス

前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図、制作を行います。

#### クラフトデザイン系 テキスタイルクラス

前提講義に続いて、デザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となります。

#### ○通信授業

##### プロダクトデザイン系

学習指導書を参照し、面接授業で提案したデザインのブラッシュアップを行います。

#### クラフトデザイン系 陶磁クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参すること。

#### クラフトデザイン系 テキスタイルクラス

面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明します。

### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

### 【履修条件及び履修年次】

#### ○履修年次

4年次

#### ○履修条件

生活環境デザインコース 3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2)にある特例を除く)。

#### ○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4年次必修科目。

スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画II →生活環境計画Iの順で受講することが望ましい。

### 【教材等】

#### ○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』(武蔵野美術大学出版局 2003年)

横溝健志 監修『工芸』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』(武蔵野美術大学出版局 2007年)

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』(武蔵野美術大学出版局 2009年)

#### ○学習指導書

『生活環境計画I・II/生活環境デザイン研究/卒業制作 2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年)

### 【その他】

#### プロダクトデザイン系

- ・本課題を選択する者は、夏季の暑い環境下で他者がどのような振る舞いをしているかを見て考察しておくことを推奨します。
- ・本授業後半で模型の作成を行う場合、模型製作に最低限必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
- ・提案内容やプレゼンテーションの検討にあたり、自らのノートPCを用意できる場合は持ち込み可とします(プリンターは学校のものを使用可能。Windowsユーザーはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-C)を用意ください)。

科目名	生活環境計画 II						
授業コード	1310	授業科目名	生活環境計画 II			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、三澤直也講師、渡辺衆講師、萩原千春講師、大蔵紗也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行います。

プロダクトデザイン系では、「体験」のデザインをテーマとし、本学鷹の台キャンパスの所定の空間を対象とした提案を行います。  
クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行います。

#### 【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とします。

##### ○面接授業および通信授業課題

###### プロダクトデザイン系

鷹の台キャンパスの所定の空間を対象とした体験の提案。

- ・鷹の台キャンパスのフィールドワークとグループワークを通じた「体験」の構想。
- ・「体験」を実体化する具体的なアイデアの創出。
- ・提案したい「体験」が伝わるプレゼンテーションの構想。

###### クラフトデザイン系

- ・テキスタイルクラス

面接授業において、インテリアファブリック製品のデザイン提案を行います。織物の構造を理解し、チェックパターンの構築と配色計画を学習し、通信授業では、インテリアブランドの市場調査を行い、それを基にしたパターンを制作します。

###### ・陶磁クラス

通信授業において、鋳込製品の調査を行います。それを基にして、注器(ピッチャー)のアイデアスケッチを行います。面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて石膏による鋳込型を作り、鋳込み泥しょうを用いて注器を制作します。

\* 課題については学習指導書『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### プロダクトデザイン系

面接授業→通信授業

##### クラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

##### クラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

##### ○面接授業

###### プロダクトデザイン系

前提講義の後、リサーチとグループセッション、アイデアの検討展開、プロトタイプ作成と検証等、一般的なデザインプロセスを進めプレゼンテーションまでを行います。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

前提講義に続いて、デザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評を行います。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図制作を行います。

○通信授業

プロダクトデザイン系

学習指導書を参照し、面接授業で提案したデザインの評価（と再検討）を行います。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出。（詳細は面接授業最終日に説明します。）

クラフトデザイン系、陶磁クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参すること。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

生活環境デザインコース 3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2)にある特例を除く)。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4年次必修科目。

スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画Iの順で受講することが望ましい。

#### 【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』(武蔵野美術大学出版局 2003年)

横溝健志 監修『工芸』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』(武蔵野美術大学出版局 2007年)

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』(武蔵野美術大学出版局 2009年)

○学習指導書

『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年)

#### 【その他】

プロダクトデザイン系

・本課題を選択する者は、日頃のスクーリング出校時にキャンパス内を観察し、他者がどのような振る舞いをしているかを見て考察しておくことを推奨します。

・本授業後半で模型の作成を行う場合、模型製作に最低限必要な素材や、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。

・提案内容やプレゼンテーションの検討にあたり、自らのノートPCを用意できる場合は持ち込み可とします(プリンターは学校のものを使用可能。

Windowsユーザーはデータを移動するためのUSBメモリ(Type-C)を用意ください)。

科目名	生活環境デザイン研究						
授業コード	1320	授業科目名	生活環境デザイン研究			担当者	清水恒平教授、西川聡教授、高橋理子教授、荻原剛教授、萩野美有紀講師、萩原千春講師、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。

プロダクトデザイン系では、高齢者や障害がある人を対象とした「バリアフリー」「福祉機器」「ユニバーサルデザイン」や「共用品」など、共に暮らせる社会と生活環境を実現するための具体的な機器の提案およびデザインを行う。

クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行う。

#### 【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

##### ○面接授業および通信授業課題

###### プロダクトデザイン系

予習で行う「日常調査」をもとに、面接授業では分析と問題の抽出、生活のしやすさや楽しさを増すための機器の考案、技術的な裏付けなどから、具体的なデザインの提案を行う。

通信授業では、面接授業での提案をもとに機器のデザインを行う。

###### クラフトデザイン系

###### ・テキスタイルクラス

面接授業において、格子（チェック）の研究を行い、室内空間におけるタペストリーあるいはスペースデバイダー（間仕切り）を織物で制作する。通信授業では、商品計画の為の企画とプレゼンテーションを行う。

###### ・陶磁クラス

通信授業において、花器をデザインする。面接授業では、通信授業でデザインした花器から1点を選んで、さらに検討を加えて制作する。

\* 課題については学習指導書『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ／生活環境デザイン研究／卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### プロダクトデザイン系

予習（事前調査）→面接授業→通信授業

##### クラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

##### クラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

##### ○面接授業

###### プロダクトデザイン系

前提講義後、予習の「日常調査」を分析、製品の考案、コンセプトの設定、デザイン作業、簡易モデルの制作、パソコンを使用したプレゼンテーションで講評を行う。

※ 面接授業前予習課題を初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

前提講義に続いて、工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

通信授業課題のデザイン案をもとに検討を加えて花器を制作する。

○通信授業

プロダクトデザイン系

面接授業で考案した製品の検証と、評価を行い、その結果を踏まえた機器のデザインと企画書を作成する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

面接授業をふまえて、課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業前、7月1日までに提出する。添削後、返却された課題は面接授業初日に必ず持参すること。

※ 提出期限については月刊誌『武蔵美通信』の「通信教育課程面接授業（スクーリング）受講条件」を参照のこと。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

生活環境デザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II教育課程1-3(2)にある特例を除く)。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目。

#### 【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

○学習指導書

『生活環境計画I・II／生活環境デザイン研究／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

グループワークあり。学外実習の可能性あり。



科目名	卒業制作						
授業コード	1840	授業科目名	卒業制作	担当者	西川聡教授、高橋理子教授、萩原剛教授、萩原千春講師、後藤大樹講師、光主あゆみ講師		
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

これまでに生活環境デザインコースの各選択領域で学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザイン、クラフトデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作をすることが期待される。

#### 【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

\*課題については、学習指導書『卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○面接授業

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

※オンラインプラス [準備] — Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

※オンラインプラス [中間] — Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

\*テキストスタイルクラスは鷹の台工房が主な会場となる。

##### ○通信授業

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

#### 【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースに在籍していること。

- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 3 年次必修科目をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。

**【教材等】**

○教科書

なし

○学習指導書

『生活環境計画 I・II / 生活環境デザイン研究 / 卒業制作 2024 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年)

**【その他】**

なし

科目名	スペースデザイン論						
授業コード	1330	授業科目名	スペースデザイン論	担当者	清水恒平教授、荻原剛教授、大野洋平講師、古謝里沙講師		
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

##### 観察と想像—空間構成と表現—

我々を取り巻く環境は、様々な生活機器や建築物がそれぞれの役割を担いながら互いに影響し合い、我々の暮らしを支えている。我々が暮らす環境を日常的な暮らしから離れて、造形的、構成的、空間的な視点で捉えようと、そこからは魅力的な表情と豊かなイメージを見いだすことができる。また、空間を介して「ヒト」と「モノ」とが出会う時、「ヒト」と「モノ」との間にコミュニケーションが生まれる。これは、「モノ」に付加されたイメージを、我々が読みとる（感じ取る）ことで成立するコミュニケーションの一つである。スペースデザイン論では、我々の思いを誘発する共振力、触発力といった造形の持つ力を認識し、空間と造形の関係について考察する。また、空間構成を行う上で必要となるキーワード（イメージ、プロセス、構成）を手掛かりに、造形表現のための方法を学び、自身の造形表現の方法を見つけ出す契機となることを目指している。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 物語性の発見

Step1 日常の風景を画像として切り取り、画像から想起されるイメージや思いを200字程度にまとめ、コメントとして表す。  
Step2 コメントに記されたイメージを定着させるために、エスキースケッチを繰り返し行い、造形表現のための準備をする。  
Step3 イメージ構成として完成させる。  
※Step2で描いたエスキースケッチは総て提出する。

\*課題については学習指導書『スペースデザイン論 2024年度』を必ず参照する事。

##### ○面接授業課題

指定された楽曲のイメージの造形化、空間化を目標とするが、合わせて制作の過程をコンセプトボードとして制作する。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

##### ○面接授業

###### 前半

- 第1日 前提講義 課題説明  
エスキースケッチ制作  
第2日 エスキースケッチ制作、コンセプト制作  
中間発表、コンセプト制作

###### 後半

- 第3日 模型制作、コンセプトボード制作  
第4日 模型制作、コンセプトボード制作  
発表、講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評価による。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

○履修条件

「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（スペースデザインコース3年次編入学生を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース3年次必修科目。

スペースデザインコース3年次編入学生でも、「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」を履修することが望ましい。

**【教材等】**

○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『スペースデザイン論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

**【その他】**

インテリア事典、映像イベント事典、現代デザイン事典などがコンパクトな参考書となるが、建築、インテリア、その他の雑誌類も新しい資料として役立つ。

身の回りの空間を見つめ直すためには、様々な作例の情報収集などにも注意しておく。

科目名	空間設計 I						
授業コード	1340	授業科目名	空間設計 I			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、大抜久敏講師、坂本周講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

##### 〔商空間の考察と設計〕

店舗や商業施設、展示会、ウィンドウディスプレイなどにおける商空間の在り方を考える。授業では任意に設定した既存の商空間をリサーチし、その空間におけるデザインの意味や役割を分析し考察する。更にそれらの基礎データをもとに、あらたなデザインを企画し設計する。

商空間には企業やブランドのロゴタイプをはじめ展示される商品や広告映像など多様なデザイン要素が集積する。これらを編集し適正に消費者に伝達することと共に、創造的で個性的な空間も求められている。斬新な発想と現代的な商業価値を合致させるための商空間の新しい方向性を探る。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

店舗のデザインリサーチと分析により商空間を論理的に考察する。

##### ○面接授業課題

通信授業におけるデザインリサーチのデータをもとにあらたな空間設計を行う。

\* 課題については学習指導書『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

通信授業→面接授業

##### ○通信授業

任意で地域の店舗を選択し、そのデザインリサーチを行う。リサーチの主眼として店舗を構成するデザイン要素を抽出し、分析する。すなわち店舗のサイン（看板）などにおける企業やブランドのロゴタイプ、色彩などのデザイン。店舗で販売される商品のデザイン。販売台や壁面、床など空間のデザイン。

リサーチの成果を面接授業の初日に各自プレゼンテーションを行う。

※ 通信課題を面接授業初日に必ず持参すること。

##### ○面接授業

デザインリサーチに基づき独自の発想で店舗デザインを設計する。店舗のロゴタイプ、色彩、および商品など既存のデザインは通信授業で収集したデータを標準的に使用する。

第 1 日 前提講義、通信授業のプレゼンテーション

第 2 日 コンセプトメイキング・アイディアスケッチ

第 3 日 設計・制作実習

第 4 日 設計・制作実習・プレゼンテーション・講評

#### 【成績評価の方法】

通信授業および面接授業における課題への取り組み姿勢、プレゼンテーションの内容を主体に、出席状況を総合して評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

スペースデザインコース 3 年次必修科目をすべて修得していること（「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『空間設計Ⅰ・Ⅱ / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

教科書の他に、各種の専門誌、商業施設関連の単行本等も、参考書として適宜利用する。  
リサーチ、設計等においてデジタルメディアの活用も組み入れていく。

科目名	空間設計 II						
授業コード	1350	授業科目名	空間設計 II			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、馬場美次講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

光のデザイン / デザインの振り返り方

光には空気のような体感的な作用があり、影には視覚的な作用がある。光と影、素材と形体という複合的な効果から空間には意味が生まれ、人々の生活を豊かにしたり、空間を演出したりする。空間設計IIでは、空間自体やプロダクト、グラフィックなどの対象物を照らす「光」を題材として捉え、課題作成を通じて基本的な光のデザインと思考プロセスを研究する。

(ここで言う思考プロセスの一部として、作成したものを冷静に分析し、他者との比較や対話を行うことを通じて「いかに振り返るか」についても重点的に取り組む)

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業課題〔光のデザイン〕

一片45cmの立方体の内部空間を題材とし、課題に即した光のテーマ、コンセプトを構想する。実際に立方体の内部空間を照らしながら、「光のデザイン」についてグループワークを通じて研究する。

- ・課題に即した光のテーマ、コンセプトを構想して空間を照らし出す。
- ・グループワークを通じて狙いどおりの光のデザインが出来ているかを理解する。(デザインの自己点検と他者との対話を通じた「振り返り方」を行う。)
- ・学びを通じて課題をアップデートし、新たな提案に結びつける。

##### ○通信授業課題〔計画と構想〕

課題1では面接授業での取り組みを紙面に定着し、光と空間の「伝え方」について取り組む。課題2では、課題1での学びを活かして新たに設定されるコンセプトによる照明計画とその展開を構想する。

\* 課題については学習指導書『空間設計I・II /スペースデザイン研究/卒業制作 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

面接授業 → 通信授業

[面接授業4日間]

前半

- 第1日 前提講義・課題説明  
テーマ設定とコンセプトの構想、モデルの作成
- 第2日 モデルの作成とグループワーク

後半

- 第3日 モデルの作成
- 第4日 プレゼンテーション準備  
発表、講評、グループワーク

##### ○通信授業

写真、図表、図面、見取図等によるレポートの提出。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業を総合的に評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次～

○履修条件

スペースデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2) にある特例を除く)。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

○学習指導書

『空間設計 I・II /スペースデザイン研究/卒業制作 2024 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年)

【その他】

- ・グループワークあり。
- ・本授業では、主に紙を使用した立体物の作成を行います。模型製作に最低限必要な、カッター、はさみ、接着剤、定規等の道具は可能な限り自ら用意するようにしてください。
- ・使用する素材は当日の授業内に学内画材店にて購入する計画です。作成には2,000円程度が必要（作成物によって上下する）と理解し、当日の準備をお願いします。



科目名	スペースデザイン研究						
授業コード	1360	授業科目名	スペースデザイン研究			担当者	上原幸子教授、荻原剛教授、大野洋平講師、古謝里沙講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

##### 〔劇空間の演出性の考察と表現〕

都市には、様々な演出された空間が混在する。例えば、イベントのための空間、演劇等の上演のための空間など特定の目的をもった施設、照明や造形物によって新たな意味を加えていく環境演出など多様な事例がある。その中軸となるのは、空間に劇的要素を加える演劇的手法である。テーマに応じて表現メディアをどのように組み合わせるか、演出手法の分析を通して学習する。

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業課題

前半：劇的な空間表現手法の解説と事例の学習。台本分析。  
後半：テーマを設定して、イメージを展開していく。

##### ○通信授業課題

面接授業で実習したテーマのイメージスケッチ及び見取図を完成し、提出する。

\* 課題については学習指導書『空間設計Ⅰ・Ⅱ / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

面接授業→通信授業

##### ○面接授業

第1日 前提講義と課題説明、台本分析  
第2日 コンセプト作成、中間発表  
第3日 イメージドローイング  
第4日 プレゼンテーション準備、講評

##### ○通信授業

面接授業で指定された空間とテーマに則して、スケッチと図面及び完成予想図を作成する。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業を総合的に評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

スペースデザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」Ⅱ教育課程1-3(2)にある特例を除く)。  
Webキャンパスのフォーラム内に掲載する指定台本を事前に読んでおくこと。

##### ○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

教科書の他、面接授業では劇場、イベント、テーマパークなどの事例を紹介する。  
人工的な空間ばかりでなく都市と自然の関係にも対応して授業を進める予定。

科目名	卒業制作						
授業コード	1850	授業科目名	卒業制作			担当者	荻原剛教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

これまでにスペースデザインコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

#### 【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

\* 課題については、学習指導書『卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○面接授業

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

※オンラインプラス [準備] — Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

※オンラインプラス [中間] — Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

##### ○通信授業

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

#### 【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・工芸工業デザイン学科スペースデザインコースに在籍していること。
- ・工芸工業デザイン学科スペースデザインコース3年次必修科目をすべて修得していること(「学生ハンドブック」II 教育課程 1-3 (2)にある特例を除く)。
- ・工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目。

#### 【教材等】

○教科書

なし

○学習指導書

『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	ミュージオロジー I						
授業コード	1370	授業科目名	ミュージオロジー I			担当者	新見隆教授、 河原啓子講師、 中島智講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科【学1課程】3年次必修科目【学2課程】3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「ミュージオロジー（博物館学）」の概念についての基本的理解を獲得し、世界と日本における博物館の成立から現在までの展開、現行の博物館法に基づく博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の条件と区分法、資料の保存と公開との関係、現代のヨーロッパと日本における博物館の動向、博物館の施設と活動との関係などについての基礎的知識を、美術館の事例を中心として学修すること。

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業課題

学芸員の業務や美術館活動の実際を、講義と見学、グループ議論等により指導。

##### ○通信授業課題

教材による学習の後、博物館施設の事例調査に基づく研究を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

\*課題については学習指導書『ミュージオロジー I 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

面接授業→通信授業

##### ○面接授業

- ・コレクション形成と美術館の成立／美術館と展覧会／学芸員の業務／美術館評価／美術館の動向 等
- ・美術館見学／学芸員・職員による説明／施設、展示、来場者等に関する調査
- ・見学施設への美術館評価のグループ発表と講評指導

##### ○通信授業

- ・（教材による学習）ミュージオロジーの概念／ミュージアム体験の意味／博物館法／博物館の種類／ミュージアムの歴史／各国博物館の特徴と社会背景／設置形態と収集理念／ミュージアムの空間／キュレーターの視点 等
- ・（学修報告と添削指導）美術館の人・物・場の関係について事例調査に基づく研究

#### 【成績評価の方法】

通信授業、面接授業評価の平均点とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

- （学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。  
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース3年次必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

## 【教材等】

### ○教科書

新見隆編『ミュージオロジーへの招待』（武蔵野美術大学出版局 2015年）

### ○学習指導書

『ミュージオロジー I 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

## 【その他】

日頃からできるだけさまざまなミュージアムに実際に足を運び、そこで何を見て、体験し、そして何を感じたかについて振り返りつつ、学習をすすめてほしい。

また、レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

科目名	編集研究						
授業コード	1400	授業科目名	編集研究			担当者	金子伸二教授、白井新太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業（科目試験あり） 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

芸術文化を社会に伝えるうえで出版編集が果たしてきた役割とは何か？ 主に出版メディアを対象に、編集意図や主張、恣意性、作為性を読み取り、政治・社会への働きかけや流行・文化との関係、執筆者や読者との関係、編まれ方の変遷などについて、観察と構造的な分析・研究を行なうことで、編集の役割について考える。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

A6判16ページの小冊子の編集制作および800字程度の「制作レポート」（学習指導書参照）。

##### ○面接授業課題

出席による学習と、雑誌の観察・分析結果をまとめた報告書の作成（所定の「観察・分析シート」に記述）。

\*課題については学習指導書『編集研究 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

教科書に収録された以下の文章を批判的に検討し、自分の考え方を明確にして、小論文執筆の構想を練る。教科書の構成は以下のとおり。

「第一部」編集とは何か、プロデューサー（統括者）としての編集者、《編集》行為からみた宮沢賢治の《文学行為》、美術全集と東山魁夷

「第二部」書籍の装釘の話（内田魯庵、昭和3年）、教化機関としての小説及び浮世絵（市島春城、大正14年）、『文章世界』のこと（前田晁、昭和17年）、挿絵文化の意義（木村毅、昭和16年）

##### ○面接授業

第1日目 前提講義、編集と折・用紙・印刷などとの関係性についての講義、本の観察・分析演習1

第2日目 編集と製本・文字・装丁などとの関係性についての講義、本の観察・分析演習2

第3日目 書籍と雑誌の編集・デザイン、出版、流通の仕組み、電子書籍などについての講義、本の観察・分析演習3（雑誌の比較）

#### 【成績評価の方法】

##### ◎科目試験

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

##### ○備考

芸術文化学科各コース3年次必修科目。

スクリーニング時に、受講人数を制限する場合がある。

#### 【教材等】

##### ○教科書

酒井道夫編『教養としての編集』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

##### ○学習指導書

『編集研究 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】





科目名	博物館資料保存論						
授業コード	2240	授業科目名	博物館資料保存論			担当者	金子伸二教授、成田朱美講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

博物館において資料を保存することの意義と保存の歴史、文化財保存の理念、保存を支える関係要素を理解したうえで、資料の材質・形状・状態に合わせた調査・保存・修理方法、資料の劣化因子と保存のための環境整備の重要性を認識し、あわせて展示・梱包・輸送など博物館活動に伴う資料の扱いと保存との関係などへの考察を通して、博物館における資料保存のための基礎的知識を、美術工芸、考古、民俗資料を中心として学ぶ。

#### 【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館における資料の保存と公開の取り組みに関する事例研究、資料の劣化につながる保存環境因子についての調査報告の2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

#### 【授業計画】

○通信授業

・（教材による学習）博物館における資料保存の意義（文化財資料に求めるもの／保全をおびやかすリスクとは／臨床的保存の必要性／職業倫理／資料保存を支える専門家）、環境と資料の状態診断（資料の保存公開と環境の関係／環境をモニタリングして状態を評価する／資料の調査診断と記録）、環境と予防保存（環境を改善して資料を保全する／博物館資料を安全に輸送する／保存箱で安全な環境をつくる）、劣化と修理保存（修理を行う前に状態を調査する／对症修理と本格修理の役割／修理報告書を作成する／本格修理の事例）、教育と普及（保存活動の公開／保存教育）、環境保護と博物館の役割（低炭素社会との共存／自然災害への対応／環境と調和する資料保存）

・（学修報告と添削指導）博物館における資料の保存公開活動の事例研究／資料劣化につながる環境因子についての調査報告

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3～4年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

○教科書

神庭信幸著『博物館資料の臨床保存学』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

○学習指導書

『博物館資料保存論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館展示論						
授業コード	2250	授業科目名	博物館展示論			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

博物館における展示活動の起源と変遷、近年の動向を把握したうえで、展示を成り立たせる条件、展示の目的と形式との関係、展示を構成する諸要素、展示計画の進め方についての基礎的な知識を学修し、あわせて展示という行為に伴う課題や展示において求められる配慮に対する意識を養い、展覧会の企画趣旨と資料の特性や空間の条件、来場者の状態やニーズを勘案した展示計画の基本構想を立案し伝達する能力を獲得すること。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、実際の博物館展示から企画趣旨と展示構成との関係を観察・把握し評価・改善提案を行う事例研究、収集された身近な事物を資料と見立てた小規模展示を計画し、実施した結果を記録・文書化する2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

・（教材による学習）博物館機能での展示の位置／展示の起源と展示学の成立／展示のインタラクティブ化・デジタル化／展示活動のプロセスと体制／展示に関する諸法令／館種等による展示の違い／展示を構成する諸要素／展示における解説活動／展示での資料劣化と管理／映像展示の特徴／展示におけるバリアフリー／展示の政治性・社会性／展示と知的財産権 等

・（学修報告と添削指導）展示の企画と構成との関係を把握し評価を行う事例研究／身近な事物を資料とした小規模展示の計画と実施

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3～4年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

日本展示学会編『展示論 博物館の展示をつくる』（雄山閣 2010年）

##### ○学習指導書

『博物館展示論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館教育論						
授業コード	2260	授業科目名	博物館教育論			担当者	三澤一実教授、金子伸二教授、川延安直講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

社会教育施設としての博物館の役割と博物館における教育的機能の種類や特徴を理解したうえで、実際の活動事例の把握を踏まえて、活動実践のための考え方や具体化に向けた手法、学校や地域社会など館外との連携のあり方などを、美術館における教育普及活動を中心的な題材として学び、博物館における教育活動への理解を深めるとともに、教育の担い手としての基本的な認識と活動計画のための基礎的な能力を獲得すること。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1、2

・（教材による学習）博物館における教育／博物館教育の基礎理論／博物館での学習論／博物館の教育活動／さまざまな館・園の教育活動の特色／博物館教育プログラムの評価／社会教育施設としての博物館活動／博学連携の意義と課題／博物館教育をになう学芸員の役割

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

・（教材による学習）博物館における教育活動の背景／学校教育との関係／来館者とのかかわり／博物館の種類に応じた取り組み事例／博物館とまちづくり／体験型展示／ワークシートの位置づけと事例／ワークシート開発の流れと留意点／学校における鑑賞教育事業 等  
・（学修報告と添削指導）教育プログラムの目的と内容構成を考察する事例研究／教育プログラムの立案と実施のための関連ツール制作

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3～4年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

小笠原喜康ほか編『博物館教育論 新しい博物館教育を描きだす』（ぎょうせい 2012年）

##### ○学習指導書

『博物館教育論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	造形民俗学						
授業コード	1380	授業科目名	造形民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

ここでは、民具とよばれる道具類を対象として日本、日本人の築きあげてきた生活文化、生活意識のありようを考える。民具は比較的身近にある材料を素材として、伝統的な技法で作られ、日常生活に欠くことのできない必須のものとして使い続けられてきたものである。特別なモノではない。存在するのが当たり前として研究や観賞の対象として取り上げられることもなかったものである。しかし、それらの一つ一つを取り上げて、制作技術、使用方法、暮らしの中での役割・機能等を仔細に観察する時、そのモノに込められた作る人、使う人の心情をも読み取ることができる筈である。それこそが造形やデザインの原点ともなるものであろう。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1 「伝統的生活用具の機能と造形」

伝統的だと考えられる生活用具（民具）の一つを取り上げて、そのものの使われ方、生活の中での役割、機能をそのものに即して具体的に調査・研究し、その形の持つ意味を考察すること。本文 2000 ～ 3000 字以内にまとめ、他に形態、大きさのわかる計測図を何点かつけること。ものによっては使い方も図示すること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

##### ○通信授業課題 2 「新しい生活用具の導入と生活の変化」

1960 年代以降の高度経済成長等による急速な社会変化にともなって、新しい生活機器類（農器具・電気器具等）が導入普及され、従来の民具がそれに置き換えられる傾向が広範にみられる。それらの機器が家庭内に入ることによって、生活の中には変わった部面とそれにもかかわらず変化のない側面があるはずである。具体的に一つの機器あるいは民具を取り上げて調査・研究し、レポートすること。本文 2000 ～ 3000 字以内にまとめること。また大きさのわかる計測図を何点かつけること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

\* 課題については学習指導書『造形民俗学 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

教科書として使用する『藁の力』は、ここで対象とする造形物（民具）の研究方法を具体的に提示したものであるからそれを十分に読み込み、研究・調査、観察の手引きとすること。

#### 【成績評価の方法】

科目試験は行わない。通信課題のみによって評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3 年次～

##### ○履修条件

「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

##### ○備 考

芸術文化学科造形研究コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース 3 年次選択必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

田村善次郎、佐藤健一郎『藁の力』（淡交社 1996 年）

##### ○学習指導書

『造形民俗学 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

#### 【その他】



科目名	造形学概論						
授業コード	1410	授業科目名	造形学概論			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業（web提出可、科目試験あり）						

#### 【授業の概要と目標】

造形にかかわる諸学についてその成立事情と問題意識を把握することを通して、造形研究の基本的な視座を獲得することを目的とする。授業では、近・現代日本における造形関連諸学の文献研究を行う。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1

教科書の読解を踏まえて、美学、芸術学、美術史学等、造形関連諸学の成り立ちについて考える課題。

##### ○通信授業課題 2

近・現代日本における造形関連文献の精読を通して、造形と学問との関係について考える課題。

\* 課題については学習指導書『造形学概論 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

教科書による。

- 第 1 章 美術の枠組み
- 第 2 章 美的経験と感覚
- 第 3 章 美をめぐる知識
- 第 4 章 芸術家という個性
- 第 5 章 純粋なる作品
- 第 6 章 生活からの離脱
- 第 7 章 美術と造形

#### 【成績評価の方法】

##### ◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出題する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3 年次～

##### ○履修条件

「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

##### ○備 考

芸術文化学科造形研究コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース 3 年次選択必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

金子伸二『造形学概論』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

##### ○学習指導書

『造形学概論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

#### 【その他】

なし

科目名	メディア論						
授業コード	1390	授業科目名	メディア論			担当者	金子伸二教授、岡川純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

\*課題については学習指導書『メディア論 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

- ・（教材による学習）教育におけるメディア活用／視聴覚教育の源流と展開／視聴覚メディアの諸形態／メディアの概念と歴史／メディア「による」教育と、メディア「についての」教育／メディア・リテラシー教育の成立と展開／博物館におけるメッセージ伝達／メディアを活用した展示／教育の情報化／メディアに関わる諸権利等
- ・（学修報告と添削指導）博物館内における情報発信の取り組みについての調査／博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題1と2を総合して評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

（学1課程）

芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

佐賀啓男編著『改訂 視聴覚メディアと教育』（樹村房 2010年）

##### ○学習指導書

『メディア論 2024年度』（武蔵野美術大学造形大学通信教育課程 2024年）



【その他】

○参考文献

『メディア・リテラシー』（菅谷明子著 岩波書店 2000年）ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	生涯学習概論						
授業コード	1450	授業科目名	生涯学習概論			担当者	加藤幸治教授、紫牟田伸子講師、田中洋江講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めることを目標とする。

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業課題

博物館の生涯学習活用について講義と小課題等により指導。

##### ○通信授業課題

教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

\*課題については学習指導書『生涯学習概論 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

面接授業→通信授業

##### ○面接授業

スクーリング受講前に教科書をよく読むこと。

- ・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館 等
- ・施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
- ・発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

##### ○通信授業

- ・（教材による学習）生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先進者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見 等
- ・（学修報告と添削指導）社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

- （学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。
- （学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

スクーリング時に受講人数制限をする場合がある。

（学1課程）

芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版局 2008年）

##### ○学習指導書

『生涯学習概論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。  
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。  
面接授業では小課題の作成・提出・発表等を予定。

科目名	資料情報処理						
授業コード	1420	授業科目名	資料情報処理			担当者	堀越洋一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（web提出可） 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

美術を広く人々の「鑑賞」に提供することを企画する者にとって、資料情報処理の理論を学ぶことは不可欠である。美術に関する各種データの研究及び表現の基礎として、美術資料及び情報の処理について研究する科目である。

美術・デザイン分野で扱う資料は文字情報のみならず、作品写真等の静止画像や映画、ビデオ等の動画像、音楽等の音声等多様であり、記録メディアも、印刷物から電子メディアまで多種類にわたるが、最近ではインターネット上での情報提供に見られるように、資料の電子化（デジタル化）が情報共有のために重要になってきている。

この科目では、多様な資料の特性、資料の収集から整理／提示手法、特にデータベース化などの電子化に関して学習する。通信授業では、文献資料の収集、書目、書誌、索引等の参考図書やレファレンスツールを理解し、面接授業では、図書や Web を通じた文献・画像資料の検索演習、個々人で小規模な書目類のデータベースを制作することを通して資料の収集、分析、再構築により様々な情報資源について理解することを目標とする。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

各自が利用できる図書館に行き、各自が決めたテーマ（美術史、デザイン分野など）についての参考図書を調査し、それを基に、レポート作成する。

##### ○面接授業課題

個々人で小規模な書目類のデータベースを、市販ソフトウェア（FileMaker Pro.）を使って制作する。収録データについては、手持ちの資料等より各自が選んで収集する。

\* 課題については学習指導書『資料情報処理 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

美術を鑑賞に供するとはどういうことか。そのために必要なメディアや技術を理解するため、以下の項目を内容とする。制作にあたっては、学習指導書を精読してから取り組むこと。

- ・美術・デザイン分野の書目、書誌、索引等参考図書、Web（レファレンスツール）の概要。
- ・作品情報（作品写真、履歴、展覧会出品履歴等）、作家情報（氏名、生没年、参考文献、年譜等）の実例（記述項目、表記）を所蔵品目録、展覧会カタログ、カタログレゾネで検証するプロセス等。

##### ○面接授業

・参考図書や Web 上の美術・デザイン分野のデータベースの紹介と検索演習。

・個々人のテーマに沿った小規模なデータベースを制作する。

スクリーニング前に各自が制作するデータベースのテーマについてメールで提出すること。提出方法はネットフォーラムを参照すること。

#### 【成績評価の方法】

##### ○通信授業

課題に関するレポートの調査、考察の深度、完成度（レイアウト等）。

##### ○面接授業

作成したデータベースの完成度。

以上を総合的に評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」 p.053 の特例を除く）。

##### ○備考

芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。  
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

**【教材等】**

○教科書

藤田節子『図書館活用術 新訂第 4 版』（日外アソシエーツ 2020 年）

○学習指導書

『資料情報処理 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

**【その他】**

面接授業では第 1 日目に学外見学を予定。

科目名	媒体組成研究						
授業コード	1430	授業科目名	媒体組成研究			担当者	金子伸二教授、前多令子講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T2、S1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

芸術文化とりわけ造形芸術は、材料やその使用技法という物質的な要素を抜きに存在しえない。この授業では、造形芸術におけるこうした物質的要素を、記録や伝達、表現といった機能を個別的な作品として成立させる媒体としてとらえ、その時代的・地域的な特性や、例えば絵画における壁画・タブロー・挿絵等といった媒体の形式と美術館・印刷物・映像等による作品の鑑賞・受容のあり方とのかかわりを把握することをおして、造形芸術に対するより深い理解を獲得することを目的とする。通信授業では、造形芸術と媒体とのかかわりについて、近代における複製技術の役割を中心に、理論的・歴史的観点から学習する。面接授業では、研究のケーススタディとして、今日まで造形芸術の主要な媒体の一つとなってきた書物について、その素材や構造を伝統的な書物工芸によりながら学習する。

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業課題

書物工芸の歴史についての理解をもとに、西洋と日本の書物における材料・技法の特性と書物の機能について分析する課題。

##### ○通信授業課題 1・2

教科書の読解をととして得られた理解をもとに、近代の造形芸術における媒体の変化および複製の概念について考察する課題。

\* 課題については学習指導書『媒体組成研究 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○面接授業

- ・書物工芸の歴史に関する前提講義と博物館等の見学。
- ・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習（西洋の書物）
- ・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習（日本の書物）
- ・演習の報告と総括

##### ○通信授業

教科書（とりわけ、芸術作品におけるアウラの複製技術による凋落についての論述）の精読、参考文献等の資料調査およびレポートの作成。

#### 【成績評価の方法】

##### ○通信授業

レポートによる。

##### ○面接授業

演習での報告による。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

##### ○備考

芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。  
「ブックバインディング」の単位を修得しておくことが望ましい。  
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

#### 【教材等】

##### ○教科書

ヴァルター・ベンヤミン「複製技術の時代における芸術作品」『ボードレーン他五篇』所収（岩波書店 1994年）

○学習指導書

『媒体組成研究 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

面接授業では学外見学を予定。

科目名	造形学研究						
授業コード	1440	授業科目名	造形学研究			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	3単位 (T3)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

造形研究の多様な視点を把握し、各自の研究の立脚点を把握する視点を構築することを目的とする。  
様々な方法論を、歴史的に遡及して探索したうえで、その今日的な意味を検討する。授業では、研究のための基礎資料の収集と分析を行う。

#### 【課題の概要】

○通信授業課題 1～3

特定の主題に関する基本文献の探索と学説を把握する課題。

\* 課題については学習指導書『造形学研究 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

○通信授業

教科書による。

- ・モダニズムを超えるために
- ・ヌードのへそ
- ・通俗造形論
- ・私的マンガ論
- ・ノート
- ・リズム都市・浅草
- ・「紙のうえの都市」フィールドノート
- ・20 世紀デザイン運動の意味
- ・「装釘時代」について

#### 【成績評価の方法】

レポートによる。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

○備 考

芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。

#### 【教材等】

○教科書

『造形学研究』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）

○学習指導書

『造形学研究 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

#### 【その他】

なし



科目名	卒業制作						
授業コード	1860	授業科目名	卒業制作			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるといえることである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場でもあるからである。

とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的視野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手立てであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

#### 【課題の概要】

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

\*課題については学習指導書『卒業制作 2024 年度（芸術文化学科）』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。初回の研究計画書の提出期限は5月7日必着。

##### ○面接授業

研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

#### 【成績評価の方法】

論文と提出後の講評との総合評価。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・芸術文化学科各コースに在籍していること。
- ・芸術文化学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053の特例を除く）。
- ・芸術文化学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

芸術文化学科各コース4年次必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

なし

##### ○学習指導書

『卒業制作 2024 年度（芸術文化学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	メディア論						
授業コード	1390	授業科目名	メディア論			担当者	金子伸二教授、岡川純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

\*課題については学習指導書『メディア論 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

- ・（教材による学習）教育におけるメディア活用／視聴覚教育の源流と展開／視聴覚メディアの諸形態／メディアの概念と歴史／メディア「による」教育と、メディア「についての」教育／メディア・リテラシー教育の成立と展開／博物館におけるメッセージ伝達／メディアを活用した展示／教育の情報化／メディアに関わる諸権利等
- ・（学修報告と添削指導）博物館内における情報発信の取り組みについての調査／博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題 1 と 2 を総合して評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

（学1課程）

芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

佐賀啓男編著『改訂 視聴覚メディアと教育』（樹村房 2010年）

##### ○学習指導書

『メディア論 2024年度』（武蔵野美術大学造形大学通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考文献

『メディア・リテラシー』（菅谷明子著 岩波書店 2000年）ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	生涯学習概論						
授業コード	1450	授業科目名	生涯学習概論			担当者	加藤幸治教授、紫牟田伸子講師、田中洋江講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めることを目標とする。

#### 【課題の概要】

##### ○面接授業課題

博物館の生涯学習活用について講義と小課題等により指導。

##### ○通信授業課題

教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

\*課題については学習指導書『生涯学習概論 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

面接授業→通信授業

##### ○面接授業

スクーリング受講前に教科書をよく読むこと。

- ・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館 等
- ・施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
- ・発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

##### ○通信授業

- ・（教材による学習）生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先達者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見 等
- ・（学修報告と添削指導）社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

##### ○履修条件

- （学1課程）「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。
- （学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

スクーリング時に受講人数制限をする場合がある。

（学1課程）

芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版局 2008年）

##### ○学習指導書

『生涯学習概論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。  
学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。  
面接授業では小課題の作成・提出・発表等を予定。

科目名	造形民俗学						
授業コード	1380	授業科目名	造形民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

ここでは、民具とよばれる道具類を対象として日本、日本人の築きあげてきた生活文化、生活意識のありようを考える。民具は比較的身近にある材料を素材として、伝統的な技法で作られ、日常生活に欠くことのできない必須のものとして使い続けられてきたものである。特別なモノではない。存在するのが当たり前として研究や観賞の対象として取り上げられることもなかったものである。しかし、それらの一つ一つを取り上げて、制作技術、使用方法、暮らしの中での役割・機能等を仔細に観察する時、そのモノに込められた作る人、使う人の心情をも読み取ることができる筈である。それこそが造形やデザインの原点ともなるものであろう。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1 「伝統的生活用具の機能と造形」

伝統的だと考えられる生活用具（民具）の一つを取り上げて、そのものの使われ方、生活の中での役割、機能をそのものに即して具体的に調査・研究し、その形の持つ意味を考察すること。本文 2000 ～ 3000字以内にまとめ、他に形態、大きさのわかる計測図を何点かつけること。ものによっては使い方も図示すること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

##### ○通信授業課題 2 「新しい生活用具の導入と生活の変化」

1960 年代以降の高度経済成長等による急速な社会変化にともなって、新しい生活機器類（農器具・電気器具等）が導入普及され、従来の民具がそれに置き換えられる傾向が広範にみられる。それらの機器が家庭内に入ることによって、生活の中には変わった部面とそれにもかかわらず変化のない側面があるはずである。具体的に一つの機器あるいは民具を取り上げて調査・研究し、レポートすること。本文2000 ～ 3000 字以内にまとめること。また大きさのわかる計測図を何点かつけること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

\* 課題については学習指導書『造形民俗学 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

教科書として使用する『藁の力』は、ここで対象とする造形物（民具）の研究方法を具体的に提示したものであるからそれを十分に読み込み、研究・調査、観察の手引きとすること。

#### 【成績評価の方法】

科目試験は行わない。通信課題のみによって評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3 年次～

##### ○履修条件

「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

##### ○備 考

芸術文化学科造形研究コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース 3 年次選択必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

田村善次郎、佐藤健一郎『藁の力』（淡交社 1996 年）

##### ○学習指導書

『造形民俗学 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

#### 【その他】





科目名	造形学概論						
授業コード	1410	授業科目名	造形学概論			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業（web提出可、科目試験あり）						

#### 【授業の概要と目標】

造形にかかわる諸学についてその成立事情と問題意識を把握することを通して、造形研究の基本的な視座を獲得することを目的とする。授業では、近・現代日本における造形関連諸学の文献研究を行う。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1

教科書の読解を踏まえて、美学、芸術学、美術史学等、造形関連諸学の成り立ちについて考える課題。

##### ○通信授業課題 2

近・現代日本における造形関連文献の精読を通して、造形と学問との関係について考える課題。

\* 課題については学習指導書『造形学概論 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

教科書による。

- 第 1 章 美術の枠組み
- 第 2 章 美的経験と感覚
- 第 3 章 美をめぐる知識
- 第 4 章 芸術家という個性
- 第 5 章 純粋なる作品
- 第 6 章 生活からの離脱
- 第 7 章 美術と造形

#### 【成績評価の方法】

##### ◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出题する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3 年次～

##### ○履修条件

「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。

##### ○備 考

芸術文化学科造形研究コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース 3 年次選択必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

金子伸二『造形学概論』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

##### ○学習指導書

『造形学概論 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

#### 【その他】

なし

科目名	ミュージオロジー II						
授業コード	1460	授業科目名	ミュージオロジー II			担当者	金子伸二教授、杉浦幸子教授、足立圭准教授、嘉藤笑子講師、弘中智子講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科4年次【学1課程】文化支援コース必修【学2課程】選択必修）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

「ミュージオロジー」概念についての理解を踏まえ、博物館の経営（経営基盤、管理・運営、他機関・地域連携等）と資料（収集、整理保管、活用、調査研究等）に関する基礎的な知識を修得するとともに、美術館を中心とした国内外の博物館の具体的な諸事例を通じて、博物館における機能や事業との関連、今日の動向や課題について学修すること。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 1～4

教材による学習の後、資料収集の意義に関する事例調査、収蔵資料と企画展示との関係、博物館の個性化・多様化傾向の要因、文化行政の変化と博物館の役割を考察する4点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

\* 課題については学習指導書『ミュージオロジー II 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

- ・（教材による学習）ミュージアムと経営（組織・人材／行財政／使命・評価／施設・設備／教育）、ミュージアムと資料（理念／収集／調査・研究／整理／活用）等
- ・（学修報告と添削指導）資料収集の意義に関する事例調査／収蔵資料と企画展示との関係についての考察／博物館の個性化・多様化傾向の要因についての考察／文化行政の変化と博物館の役割についての考察

#### 【成績評価の方法】

レポートによる。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

（学1課程）

文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053の特例を除く）。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

##### ○備考

（学1課程）

芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース4年次選択必修科目。

芸術文化学科芸術研究コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

#### 【教材等】

##### ○教科書

金子伸二・杉浦幸子編『ミュージオロジーの展開 経営論・資料論』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『ミュゼオロジー II 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

現場での体験を得るために、美術館・博物館などが募集するボランティア活動などに積極的に参加することが望ましい。インターネットなどを活用し、情報を収集する。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館実習						
授業コード	1470	授業科目名	博物館実習			担当者	新見隆教授、金子伸二教授、榎本寿紀講師、嘉藤笑子講師、山澤千春講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科4年次【学1課程】文化支援コース必修【学2課程】選択科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

博物館に関する科目において学習した内容を総合的に点検・整理する機会とするとともに、資料管理・展覧会の企画・運営・展示・普及に関わる各種業務を模擬的に体験することを通して、博物館活動や学芸員の職務に対する実際的な理解を深め、あわせてワークショップ活動やアウトリーチ活動など、美術館が施設以外の場へと展開している事業についてファシリテーターの立場でプログラム企画に取り組むことによって体験を積む。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

展覧会企画案の作成を課し、添削指導を行う。

##### ○面接授業課題

学内実習として大学美術館および民俗資料室の施設と業務内容を理解した上で、ワークショップ等教育普及活動の手法を体験するとともに、資料データベースの活用法を修得する。また館園実習として大学美術館および民俗資料室での所蔵資料調書作成、資料貸借業務と梱包作業等の訓練を踏まえ、展示室での資料展示の実習までを行う。

\* 課題については学習指導書『博物館実習 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

・（学修報告と添削指導）学内実習（見学実習）該当 テーマ検討／展覧会の領域決定／対象館の所蔵資料調査／展覧会会場の空間条件考慮／対象館の基礎情報把握／所蔵資料の詳細調査／展覧会趣旨・目的の構想／展覧会の章立てと展示作品確定／展示作品のデータ整理／作家履歴の調査／企画書の作成／対象館の展示状況調査／会場配置と表示構成検討／関連事業立案 等

##### ○面接授業

・学内実習（事前指導）該当 オリエンテーション／実習の目標とテーマ／大学美術館の沿革と所蔵資料 等  
 ・学内実習（実務実習）該当 ワークショップの立案・実践に向けた演習／ワークショップの計画／アウトリーチ活動の現状／ワークショップ企画の発表と講評指導／今日の美術と社会をめぐる状況／実習全体についての質疑応答 等  
 ・館園実習該当 作品調書の作成／資料の梱包／資料借用の手続き／美術館の広報活動／展覧会の企画／展示作品の解説／展示方法の演習／保存科学と修復／展覧会企画の発表と講評指導 等  
 ・学内実習（事後指導）該当 文化遺産の保存／収蔵品管理の諸問題／美術館・学芸員に関するディスカッション 等

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

（学1課程）

文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053の特例を除く）。

（学2課程）

芸術研究コースの学芸員課程履修者で、「ミュゼオロジーⅠ」「メディア論」「生涯学習概論」すべての単位を修得していること。

##### ○備考

(学1課程)

芸術文化学科文化支援コース 4年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

(学2課程)

芸術文化学科芸術研究コース4年次選択科目。

芸術文化学科芸術研究コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

#### 【教材等】

○教科書

なし

○学習指導書

『博物館実習 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

企画書作成の際は、課題の趣旨をよく理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

※ この授業科目の面接授業（スクーリング）を受講する以前に、本学が定める必修科目8単位を修得している場合のみ、本学における「学芸員資格取得証明書」の発行対象となる。

面接授業ではグループワークを予定。

科目名	文化支援研究						
授業コード	1480	授業科目名	文化支援研究			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業						

#### 【授業の概要と目標】

来るべき生涯学習社会を目指し、造形の立場に立脚しつつ、文化と社会との関わりを理解し支援するための方法論の探究を行う。  
授業では、文化の概念と文化環境の動向把握、今後の展開に向けた検討を行う。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する課題。

\* 課題については学習指導書『文化支援研究 2024 年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

- ・文化の概念と近代以降の文化研究の系譜を把握する。
- ・今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する。
- ・データを通して文化施設や文化行動の現状と地域文化環境を把握する。

#### 【成績評価の方法】

レポートによる。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

文化支援コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053 の特例を除く）。

##### ○備 考

芸術文化学科文化支援コース 4 年次必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

なし

##### ○学習指導書

『文化支援研究 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

#### 【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1870	授業科目名	卒業制作			担当者	金子伸二教授、足立圭准教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるといことである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場でもあるからである。

とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的視野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手だてであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

#### 【課題の概要】

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

\*課題については学習指導書『卒業制作 2024 年度（芸術文化学科）』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。初回の研究計画書の提出期限は5月7日必着。

##### ○面接授業

研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

#### 【成績評価の方法】

論文と提出後の講評との総合評価。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・芸術文化学科各コースに在籍していること。
- ・芸術文化学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.053の特例を除く）。
- ・芸術文化学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

芸術文化学科各コース4年次必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

なし

##### ○学習指導書

『卒業制作 2024 年度（芸術文化学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし



科目名	メディア環境論						
授業コード	1490	授業科目名	メディア環境論			担当者	上原幸子教授、福井政弘教授、棚橋早苗講師、藪内新太講師、河野奈保子講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

##### ○授業テーマ「メディアを考える／メディアで遊ぶ」

私たちのコミュニケーションを成り立たせている多様なメディアとメディア環境を広く捉え直し、新たなメディアの思考と実践へと繋げることを目標とする。たとえば、メディアを取り巻く環境としては、社会体制・経済・産業・科学・技術・歴史・文化・思想・教育等があり、これらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくっていると考えられる。フィールドワークを通して現在のメディア環境を広く考察し、自らの手で実践的に新たなメディアの制作と提案を試みる。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題 課題名 「メディアの解剖」

「メディアを考える」をキーワードに、身近なモノやコトの中からメディアとして考察する対象をひとつ決め、そのメディアとメディア環境の成り立ちや仕組みを深く観察、分析し、「メディアの解剖」を試みる。解剖のプロセスと成果を図説、図解等のビジュアル表現を中心に視覚化し、ビジュアルブック「メディア解剖図鑑」を制作する。

##### ○面接授業課題 課題名 「メディアの発明」

「メディアで遊ぶ」をキーワードに、ワーキンググループで身近な環境のフィールドワークを行いながら、メディアとメディア環境の多様性と可能性を多角的に観察、考察する。授業の共通テーマは「水」とし、「玉川上水周辺」を考察のフィールドとする。フィールドワークをもとに、個人制作で「新たなメディア」のプロトタイプを試作し、プレゼンテーションでは「メディアで遊ぶ」の実践と提案を試みる。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業「メディアの解剖」

教科書と学習指導書を読み、学習指導書に沿って「メディア解剖図鑑」を制作し、提出する。

##### ○面接授業「メディアの発明」

具体的な授業進行については、授業初日にオリエンテーションを行う。

- ・1日目：オリエンテーション、ミニワークショップ、フィールドワーク、グループディスカッション
- ・2日目：フィールドワーク、個人制作
- ・中間期間：オンラインプラスによる指導
- ・3日目：個人制作、仕上げ、プレゼンテーションの準備
- ・4日目：プレゼンテーション、講評、ふりかえり

※オンラインプラス [中間] — オンライン上で制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

##### ○通信授業課題「メディアの解剖」

提出された「メディア解剖図鑑」の総合評価とする。

##### ○面接授業課題「メディアの発明」

制作した作品と提案内容、プレゼンテーションを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3年次～

○履修条件

「グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」または「情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（デザイン情報学科3年次編入学生を除く）。

○備 考

- ・デザイン情報学科各コース3年次必修科目。
- ・オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合、インターネットに接続できる環境、Facebookのアカウントが必要となる。

【教材等】

○教科書

『名前のないデザインー世界の日常と社会を動かす思いがけないデザインの話』（Works That Work 編集部 2020年）

○学習指導書

『メディア環境論 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○面接授業課題「メディアの発明」

授業前半にワーキンググループ（5名程度）で、玉川上水周辺のフィールドワーク（学外見学）およびディスカッションを行う。

○参考文献

- ・高橋裕行著『コミュニケーションのデザイン史ー人類の根源から未来を学ぶ』（フィルムアート社 2015年）
- ・柏木博著『日用品の文化誌』（岩波書店 1999年）
- ・水越伸著『メディア・ビオトープーメディアの生態系をデザインする』（紀伊國屋書店 2005年）
- ・佐藤卓デザイン事務所著『デザインの解剖』シリーズ全4巻（平凡社 2001～2003年）
- ・永原康史著『インフォグラフィックスの潮流ー情報と図解の近代史』（誠文堂新光社 2016年）
- ・ファン・ベラスコ+サムエル・ベラスコ著 和田侑子訳『なかみグラフィックスー断面図・分解図・透過図のめくるめく世界』（グラフィック社 2019年）
- ・小林真理子著+こばやし ちひろイラスト『煮干しの解剖教室 オリジナル入門シリーズ』（仮説社 2010年）
- ・佐治康生、上路ナオ子著『種子のデザインー旅するかたち LIXIL BOOKLET』（LIXIL出版 2012年）
- ・寄藤文平著『数字のモノサシー絵で見る数字の感じ方』（大和書房 2008年）

科目名	マルチメディア表現						
授業コード	1500	授業科目名	マルチメディア表現			担当者	清水恒平教授、望月重太郎講師、濱田織人講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、 M2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科各コース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ） メディア授業 [リアルタイム]						

#### 【授業の概要と目標】

マルチメディアが前提となっている現代社会をあらためて捉え直しながら、ネットワーク、ソーシャルメディア等の技術やサービスの可能性と問題点を考察しながら、マルチメディアコンテンツの企画と提案を行う。

面接授業はグループワークを行う。リサーチやフィールドワーク、テーマ発見、アイデア発想のプロセスを通して、私たちの暮らしに彩を与えるコンテンツを企画する。利用シーンを想定した試作品の制作やプレゼンテーションにも取り組む。

コンテンツの方向性に制限はないが、ICT社会における私たちの暮らしがどのような技術の上で成り立っているのかを知ることで、今、本当に求められるコンテンツは何かを考え、発想する力を伸ばすことを目標とする。

メディア授業 [リアルタイム] は全日を通じオンラインのみで行う。各自が自由に、各々のクリエイティビティを発揮できる場所から参加して欲しい（ただし、カフェや公共空間など、雑音の多い場所は避け、参加者同士が静かに集中できる環境が望ましい）。遠く離れた参加者同士が、今の通信環境と制作環境を用いながら、一つの目的に向かってアウトプットを構築していく試みである。

#### 【課題の概要】

○メディア授業課題 「社会にも経済にもサステナブルなアイデアをデザインする」  
テーマに基づき、「なぜ=Why」「何を=What」「どうやって=How」の流れに沿ってアイデアを考え、アウトプットを導きだしていく。グループワークにて進行し、最終日にプレゼンテーションを行う。

デザイン活動を行う中で「サステナブル」は大きなキーワードである。つくる、という行為は同時に「すてられるものをつくる」行為とも言える。そこを意識し、無為に消費されるだけではない循環するモデルについて改めて問い直ししていく。ただし、経済活動と連動しないアイデアは多くの場合において継続せず、どれだけ良いアイデアでも社会には定着しない。社会にも、環境にも、人にも、そして経済的にもサステナブルとなるアイデア（総じて「サーキュラーエコノミー」と呼ばれることもある）とは何か？に向き合い、具体的なアイデアを構築することを目的とする。

授業内では、Web会議システム「Zoom」を使用して進行し、同時にメッセージ共有ツール「Slack」を用いて各参加者や事務局とのやり取りを行う。またオンラインホワイトボードシステム「miro」や、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」を用いてアイデアを具体化する。よって、受講者自身のパソコン上でこれらのツールを使う前提の元、各ツールがどのようなものか？を科目参加前に各自で把握した上で授業を進めることとする。

○通信授業課題「任意のテーマによるマルチメディアコンテンツの企画と提案」  
自分自身の問題意識からテーマを設定し、課題を見つけ、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画書にまとめる。

\* 課題については、学習指導書『マルチメディア表現 2023年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○メディア授業

第1日：オリエンテーション、企画検討

第2日：企画検討、企画案発表

第3日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備

第4日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション、総評

- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
- ・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
- ・開講予定については「面接授業（スクーリング）日程表・メディア授業 [リアルタイム] 日程表」を参照すること。
- ・4日間全ての出席が必要。

##### ○通信授業

教科書『マルチメディアを考える』の全章を範囲とする。

#### 【成績評価の方法】

提出された課題作品によって評価を行うものとする。メディア授業においては出席状況も評価の対象となる。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」または「情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（デザイン情報学科3年次編入学生を除く）。

○備 考

デザイン情報学科各コース3年次必修科目。

下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

- ・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの。
- ・画像の編集作業ができるソフトウェア（Adobe Photoshop など）
- ・企画書作成のためのページレイアウト用ソフトウェア（Adobe Illustrator、InDesign など）
- ・コンテンツのサンプルを Web として作成するためのソフトウェア（テキストエディタあるいは Web ページ作成ソフト）
- ・指定された Web サイトにアクセスできること。
- ・Web会議システム「Zoom」が使えること
- ・メッセージ共有ツール「Slack」、オンラインホワイトボードシステム「miro」、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」について事前に把握し、自身の作業環境で扱えることを確認した上で授業に臨むこと
- ・授業でも触れていくが、事前に「サステナブル」や「サーキュラーエコノミー」について調べておくことが望ましい
- ・「コンピュータリテラシーⅠ」程度の知識は有していること。授業内でコンピューターの基本操作(テキスト入力やマウス操作など)の説明は行わない。
- ・操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。その場合は、最新バージョンを使用すること。

#### 【教材等】

○教科書

清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『マルチメディア表現 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

○面接授業について：グループワーク・発表を行う。

科目名	イメージ編集 I						
授業コード	1510	授業科目名	イメージ編集 I			担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師、中村孝太郎講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「イメージ編集 I」では、編集を多義的に捉え、さまざまなメディアでの表現が、人間の共通感覚に根ざしたイメージの編集によって成り立っていることを理解する。

ここでは、自らの視点から捉えたテーマを、日常の身体を通した、視る・聴く・味わう・触れるなどの体験に基づいて記録する。取材や情報の収集を含め、編集し、表現することのプロセス全体を実践することで、コミュニケーションとしての適切な方法を考える。

※この科目は実務経験を有する教員（福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、紙によるメディア制作を通して編集デザインを実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

個人の明確な情報の発信を他者に行うコミュニケーションの手段として、「私の博物誌」「私の食文化誌」を A to Z という形式で考え、紙によるメディアを制作する。

A1 サイズ 1 枚分の紙を、折る・切る・束ねる・連ねる、その他自由な形態を考え、自らの視点で編集し、テーマを受け手にわかりやすく伝え、面白いコミュニケーションツールを考える。

##### ○面接授業課題

通信課題で得られた理解を応用した編集デザインの実習、「文字の本」を制作する。

\* 課題については、学習指導書『イメージ編集 I・II 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

日常の中にある物事を改めて自らの視点で眺め、問題や関心を深めていくことから、体験的に集められてくる情報や物事の成り立ちのプロセスを探っていくことでさまざまな発見をする。それらを独自の方法で編集することで、より良好なコミュニケーションの手段を考える。編集デザインの計画をなるべく 9 月上旬までに送り、チェックを受けた後、本制作をする。

##### ○面接授業

編集デザインを中心とした授業（4日間）。

#### 【成績評価の方法】

##### ○通信授業

提出作品、制作プロセスの総合評価とする。

##### ○面接授業

制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

3 年次～

##### ○履修条件

「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得していること（コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生を除く）。

##### ○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目。

コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生は「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

#### 【教材等】

##### ○教科書

白尾隆太郎・杉山衛編著『新訂 イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局 2024年）

##### ○学習指導書

『イメージ編集 I・II 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

##### ○参考文献

石毛直道監修、熊倉功夫編『講座 食の文化 2 日本の食事文化』（味の素食の文化センター 1999年）

芳賀登・石川寛子監修『全集 日本の食文化 第 12 巻 郷土と行事の食』（雄山閣出版 1999年）

石川英輔『大江戸えねるぎー事情』（講談社 1993年）

工藤強勝監修 日経デザイン編『編集デザインの教科書』（日経 BP 社 1999年）

科目名	コミュニケーション研究 I						
授業コード	1530	授業科目名	コミュニケーション研究 I			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、藪内新太講師、河野奈保子講師、山田翔太講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「コミュニケーション研究I」では、プロジェクトのデザインについて学ぶ。  
デザインを考えるには、対象と目的が明確であることが必須である。具体的な相手と目的を見据えることで漠然とした提案にならず、アイデアを考えることへのモチベーションを高めることにつながる。この授業では、魅力あるプロジェクトを企画立案し、相手に伝わるプレゼンテーションについて考察する。人との共通の体験をととして、考えた企画を動かすために必要な「デザイン」の手応えを得ること、やったことを可視化し「形」を共有すること、そして自分にフィードバックされるプロジェクトデザインの意義を確認することを目指す。

※この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授）による授業科目である。地域活動の豊富な経験を有する担当教員が、ワークショップとメディア制作を通して、情報発信の基礎を実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

プロジェクトをデザインする

○面接授業課題 地域再発見のデザインプロジェクト

都内の特色あるコミュニティデザインの主催者をゲストに招き、ソーシャルデザインの社会的な意義や役割、地域での必要性、活動の動機や継続していくための工夫などレクチャーを行う。フィールドワークを元に、その魅力の分析を行い、新たな課題の設定とプロジェクトの提案を行う。お互いのアイデアを高め合うため、グループでのワークショップやディスカッションを行い、ゲストに対してのプレゼンテーションを行う。

○通信授業課題 日常生活活性プロジェクト

日常生活活性をきっかけに、仲間や家族とちょっとした工夫を楽しむプロジェクトをデザインする。プロジェクトの企画意図、関わるメンバーの紹介・実行の過程・感想や考察など、やったことを振り返り共有することのできる「プロジェクトの記録」を可視化する。

#### 【授業計画】

○面接授業 「三鷹のまちで○○を楽しむ、おもしろがるプロジェクト」

<前半>

- ・ゲストティーチャーによる事例紹介
- ・フィールドワーク
- ・対象へのリサーチ活動
- ・グループディスカッション、ワークショップ
- ・プロジェクトの素案作成

<後半>

- ・プロジェクトの具体化
- ・プレゼンテーションに向けての準備、役割分担
- ・コンセプトシートの作成
- ・ゲストティーチャーへのプレゼンテーションとふり返り

○通信授業 日常生活活性プロジェクト

日常生活や人間関係をより豊かにするために、身の周りの人たちとできる小さなプロジェクトを企画・実行する

- ・もっと生活を楽しくしたい、ちょっとした喜びを感じたいと思うところからスタート
- ・身近な人と、実際にできることを企画する
- ・プロジェクトの企画と同時に制作物の構成も考える
- ・企画を楽しくするためのコミュニケーションツールを制作する
- ・プロジェクトを実行し、記録をとる
- ・やったことを可視化するデザイン構成を考え制作する
- ・プロジェクトをふりかえり、メンバーにプレゼントする

- ※ 授業の前に教科書を熟読すること。
- ※ 面接授業受講に際しては持参物の確認をすること。
- ※ 課題内容については学習指導書『コミュニケーション研究I・II 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評点による総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次  
3年次～

○履修条件  
「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得していること（コミュニケーションデザインコース 3年次編入学生を除く）。

○備 考  
デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3年次必修科目。

#### 【教材等】

○教科書  
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書  
『コミュニケーション研究 I・II 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

面接授業では、グループワークを行う。

○参考文献  
山崎義人著・清野隆著・野田満著『はじめてのまちづくり学』（学芸出版社 2021年）  
上平崇仁著『コ・デザイン』（NTT出版 2020年）  
佐藤郁哉著『フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる』（新曜社 2002年）



科目名	イメージ編集 II							
授業コード	1520	授業科目名	イメージ編集 II				担当者	福井政弘教授、山口弘毅講師、杉山衛講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定		
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目）							
授業形態	通信授業 面接授業							

#### 【授業の概要と目標】

「イメージ編集 II」は、編集を多義的に捉え、さまざまなメディアでの表現が人間の共通感覚に根ざしたイメージの編集によって成り立っていることを理解する。教科書『新訂 イメージ編集』にあげた「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「表象」「省略と純化」「変換」の8つのテーマは、それらを分類することによって、背景にある作家の動機や思想を浮き彫りにしようとするものである。その思想に触れることにより、どのようにして表現されたものが成立してきたかを理解し、自らがコミュニケーションの担い手として、自らがイメージの世界を追求する。

※この科目は実務経験を有する教員（福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、エディトリアルデザインなどの編集デザインの実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

教科書『新訂 イメージ編集』にある「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「表象」「省略と純化」「変換」の8つのテーマから、3つを選んで、あなた自身がそれぞれ 2 種類の作例に相応しいと思われる作品を、デザイン・美術作品・写真・建築・コミックス・音楽などから選択し、図版と解説を指定されたデザインフォーマットにまとめる。また、8つのうちから 1 つのテーマを選び、作品をつくる。

##### ○面接授業課題

エディトリアルデザイン「自分図鑑」を制作する。

\* 課題については、学習指導書『イメージ編集 I・II 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

教科書『新訂 イメージ編集』と学習指導書『イメージ編集 I・II 2024年度』による。

#### 【成績評価の方法】

##### ○通信授業

提出作品、制作プロセスの総合評価とする。

##### ○面接授業

制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4 年次

##### ○履修条件

コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053 の特例を除く）。4年次において「イメージ編集 I」と同時履修をする場合、スクーリングは「イメージ編集 I」のスクーリング先に受講することを推奨する。

##### ○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4 年次必修科目。

#### 【教材等】

##### ○教科書

白尾隆太郎・杉山衛著『新訂 イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局 2024年）

○学習指導書

『イメージ編集Ⅰ・Ⅱ 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	コミュニケーション研究 II						
授業コード	1540	授業科目名	コミュニケーション研究 II			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師、角めぐみ講師、江澤勇介講師、稲見理講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

「コミュニケーション研究II」では、コミュニティーデザインについて学ぶ。

個人と社会のかかわりをテーマに、地域にコミットするための取材・メディア化について発展的に学ぶ。リサーチを元に眠っている資源を掘り起こし、人と人・人と社会など、さまざまな場面でのインタラクティブなコミュニティーデザインの可能性を探る。メディアをコミュニケーションの道具として捉え、誰にでもわかりやすい見せ方、企画やテーマが最も生かされる表現手法など、メディアリテラシーの獲得を目指す。

アートとデザインには、まちや人を元気にする力がある。地域の資源を生かしながら、地域社会に於けるアートとデザインの活躍の場を広げていくことを目的に、生きた学び合いの場を創出する。美術大学での学びを活かし、私たちに何ができるかを共に考え、改めて問い直してみる機会としたい。

※この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授）による授業科目である。地域活動の豊富な経験を有する担当教員が、ワークショップとメディア制作を通して、情報発信の基礎を実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

コミュニティーレポート

自分の地域にある自慢したいモノ・コト・ヒトをリサーチし、活動の場実際に足を運んでのインタビューと取材を行い、その活動を伝えるメディアの提案をする。

誰に対して何を伝えたいのかを明確にすることによって、多様なメディアの形態が考えられる。制作物は取材先にプレゼントし、その報告とともに提出する。

##### ○面接授業課題 コミュニティデザインセミナー

校友会との連携により、コミュニティデザインに携わっている卒業生をゲストに迎え、グループで授業内オンラインセミナーイベントを企画・開催する。学び合う場づくりをとおして、合意形成のためのコミュニケーションデザイン、プロセスのデザイン、空間のデザイン、広報のデザイン、プロデューサーなど、イベントの企画運営に必要な複合的要素を学ぶ。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

コミュニティーレポート

- ・地域を知る。
- ・自分の中にあるアンテナの再確認を行う。
- ・取材をする。
- ・地域の活動を紹介する編集企画を考えメディアを制作する。

中間指導を受ける（郵送提出）

- ・制作物を提出し、教員からのアドバイスを受ける。

取材先への報告レポート（web提出）

- ・アドバイスを元に完成させ、制作物と共に取材先に報告する。

##### ○面接授業 コミュニティデザインセミナー

（前半）

- ・ゲストティーチャーによるレクチャー
- ・コミュニティデザインセミナーの企画を考える
- ・広報制作

（後半）

- ・紹介動画の作成
- ・オンラインセミナーの企画開催
- ・まとめと記録制作

- ※ 授業の前に教科書を熟読すること。
- ※ 面接授業受講に際しては持参物の確認をすること。
- ※ 課題内容については学習指導書『コミュニケーション研究I・II 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評点による総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

○履修年次  
4年次

○履修条件  
コミュニケーションデザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。  
※4年次において、「コミュニケーション研究I」と同時履修する場合、スクーリングは「コミュニケーション研究I」のスクーリングを先に受講することを推奨します。

○備考  
・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目。  
・面接授業では、受講人数を制限する場合がある。  
・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上で資料のURLを掲載する。授業前に資料を確認し、ゲストについてリサーチしておくこと。

#### 【教材等】

○教科書  
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書  
『コミュニケーション研究I・II 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

○参考文献  
・山崎亮著『コミュニティデザイン—一人がつながるしくみをつくる』（学芸出版社 2011年）  
・渡邊淳司・ドミニク・チェン著『ウェルビーイングのつくりかた 「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド』（ピー・エヌ・エヌ新社 2023年）

・面接授業では、グループワークを行う。

科目名	卒業制作						
授業コード	1880	授業科目名	卒業制作			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、福井政弘教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

これまでにコミュニケーションデザインコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・Web上のコミュニケーションツール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

#### 【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

\* 課題については、学習指導書『卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○面接授業

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

※オンラインプラス [準備] — Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

※オンラインプラス [中間] — Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

##### ○通信授業

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

#### 【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコースに在籍していること。
- ・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。
- ・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

- ・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4年次必修科目
- ・オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。
- ・5月頃にWEBキャンパス「学生メニュー」のネットフォーラム上にオンラインプラス実施に関する情報を発信する。5月にはネットフォーラムを確認すること。

【教材等】

○教科書

なし

○学習指導書

『卒業制作 2024年度（デザイン情報学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。  
面接授業について：グループワークを行う。

科目名	情報通信ネットワーク						
授業コード	1570	授業科目名	情報通信ネットワーク			担当者	清水恒平教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、M2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース3年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ） メディア授業 [リアルタイム]						

#### 【授業の概要と目標】

情報技術を“学ぶための技術と姿勢”を学ぶことを目標とします。

スマートフォンやインターネットといった情報技術は、わたしたちの生活になくてはならないものとなっています。しかし情報技術はもともとは売上の計算したり便利に買い物するために作られたわけではありません。情報技術はさまざまな問題に立ち向かうための新しい「道具」として進化してきました。そして今も表現活動も含めさまざまな分野において、情報技術はなにかを生み出す道具であるという本質は変わりません。消費者の立場からアプリケーションやネットサービスのような「商品」を使いこなすだけでは、作品の作り手になることは難しいでしょう。

木工を経験したことがある人ならわかるとおり、それぞれの道具は使い手によって洗練され、正しく使うためにはその形態の意味や歴史的背景を学び、身体を訓練する必要があります。洗練された道具を適切に扱うことでしか生まれないものがあるという点においては、情報技術も木工も変わりありません。授業では、作る道具としてのコンピュータとインターネットの歴史に触れるとともに、それらを自力で学び、使い、作るため何が必要かというテーマを掘り下げてみたいと思います。実習を通じて、消費者として触れるのとは異なる世界の道具観、論理的思考、解決に向けた問題の切り分けかた、身体訓練、記録方法といった、個別技術に依存しない学ぶための技術と姿勢を学びます。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、ネットワーク技術について実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

Git、GitHubについてのリサーチと実践

##### ○メディア授業 [リアルタイム] 課題

前半 サーバ構築の課題にむけて、Linux の基本操作、Markdown による作業記録、AWS (Amazon Web Services) の利用方法、そしてこれらの未知の技術を調べて自力で理解するための基本姿勢を学ぶ。

※オンラインプラス [中間] slackなどで課題の進捗報告、作業記録公開、ディスカッションを行う。

後半 構築した AWS 上で Python をつけた Web ページのスクレイピングを行う。プログラムの自動実行の仕組みを学び、構築したサーバをデータ収集システムとして利用可能にする。なおこの仕組みは 4 年次にも使用する前提で構築を進める。

#### 【授業計画】

##### ○メディア授業

- ・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
- ・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・4日間全ての出席が必要。

メディア授業 [リアルタイム] の前に、教科書に目を通しておくこと。

質問の仕方について <https://ja.stackoverflow.com/help/how-to-ask> を確認すること。

#### 【成績評価の方法】

- ・メディア授業 [リアルタイム] 及び通信授業の総合評価とする。
- ・メディア授業 [リアルタイム] ではとくに技術的な到達点ではなく、ドキュメントの内容や論理的思考・問題解決にあたる姿勢を評価する。

#### 【履修条件及び履修年次】

- 履修年次

3 年次～

○履修条件

「情報システム基礎 I・II」の単位を修得していること（デザインシステムコース 3 年次編入学生除く）。

○備 考

デザイン情報学科デザインシステムコース 3 年次必修科目。

以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

- ・ macOSであればTerminal、WindowsであればPowershellなどのシェル環境
- ・ インターネット接続環境
- ・ パソコンの購入を検討中であれば持ち運び可能な Mac (MacBook Pro、MacBook Air) を勧める。
- ・ カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
- ・ ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

【教材等】

○教科書

『基本からわかる 情報通信ネットワーク講義ノート』（大塚裕幸 オーム社 2016年）

○学習指導書

『情報通信ネットワーク 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考文献

- ・ 『新しい Linux の教科書』（三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015年）
- ・ 『Amazon Web Services 基礎からのネットワーク&サーバー構築 改訂版』（玉川憲 片山暁雄 今井雄太 大澤文孝 日経 BP 社 2017年）
- ・ 『みんなの Python 第 4 版』（柴田淳 SB クリエイティブ 2016年）
- ・ 『エンジニアの知的生産術』（西尾泰和 技術評論社 2018年）
- ・ 『Git』（<http://git-scm.com/book/ja/v2>）

○メディア授業 [リアルタイム] について：グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。



科目名	画像表現研究						
授業コード	1550	授業科目名	画像表現研究			担当者	清水恒平教授、青木聖也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ） 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

本科目では画像表現を通して、人の知覚や認知について考察する。

画像に関する技術を用いて、人が感覚的に捉えている視覚イメージを解析し、尺度化していく。

最終的にその結果をインスタレーションとして表現し、実際に体験することで、人間の認識がどのように影響を受けるのかを確認しながら、背景技術に対する深い理解とその習得を目指す。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、画像表現について実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

- ・画像表現、インスタレーション作品の調査分析と研究提案

##### ○面接授業課題

- ・画像表現の実制作とプレゼンテーション。

※ 課題については、学習指導書『画像表現研究 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

教科書『ビジュアル情報処理—CG・画像処理入門—』の全章を範囲とする。

##### ○面接授業

第1日 オリエンテーション・各自課題設定

第2日 企画制作／カウンセリング（ネットワーク上でヒアリング）

第3日 制作／チェック（ネットワーク上でヒアリング）

第4日 制作／チェック／講評／リフレクション

※オンラインプラス [中間] — Slack上での中間アドバイス

#### 【成績評価の方法】

提出された課題によって評価を行うものとする。面接授業においては出席状況も評価の対象とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

##### ○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目。

下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

- ・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの
- ・Adobe Photoshop 等の画像編集ソフトウェア
- ・Web ブラウザ
- ・processing
- ・skype / messenger 等

下記の条件のコンピュータネットワーク環境が活用できること。

文字・音声チャットが可能なインターネット接続

※スクリーニング時に大学の PC を使用することが可能だが、自分の PC（ノート PC）を持参できる者は、持参することをお勧めする。持参する際には、TouchDesignerのインストールとユーザー登録を事前に行うこと。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『ビジュアル情報処理 ーCG・画像処理入門ー』（公益財団法人画像情報教育振興協会 2017年）

##### ○学習指導書

『画像表現研究 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

##### ○参考文献

『Beyond the Display：21 世紀における、現象のアートとデザイン』（岩坂未佳著・編 ビー・エヌ・エヌ新社 2015）

○面接授業について：グループワークを行う。

科目名	データベース						
授業コード	1560	授業科目名	データベース			担当者	清水恒平教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、 M2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ） メディア授業 [リアルタイム]						

#### 【授業の概要と目標】

データを通して考察できる社会の変化、表現手段、技術的な背景について実習を通じて学びます。

近年データという単語そのものが注目され、メディアではAI、データ分析という言葉を目にしない日はありません。私たちの社会はビジネス、行政、教育、医療、そして表現活動の分野においてもデータを有効に活用するよう変化しつつあります。この授業ではそうした多様なインパクトをもつデータの世界を技術背景、社会的な影響、さらに表現の視点から掘り下げてみたいと思います。

具体的にはデータ分析環境を構築し、インターネット上に公開されたデータを実際に分析・視覚化する実習を通じてデータとその世界への理解を深めます。特に個人の表現方法の一つとしてデータ分析的な視点を持つことを目標とします。

※この科目は実務経験を有する教員(清水恒平教授)による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、データビジュアライゼーションの手法と事例について実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

データビジュアライゼーションの手法と事例のリサーチ

##### ○メディア授業[リアルタイム]科目

データ分析環境の構築とデータビジュアライゼーション。

#### 【授業計画】

##### ○メディア授業[リアルタイム]

第1日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

第2日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

\* オンラインプラス[中間] Slackなどを利用して、インストールした分析環境でのデータビジュアライゼーション、検証、作業記録についてのディスカッションを行う。

第3日 分析環境を用いた制作・ディスカッション。

第4日 分析環境を用いた制作・発表・ディスカッション。

- ・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
- ・スクーリングの約一週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・4日間全ての出席が必要。

#### 【成績評価の方法】

制作・プレゼンテーションした分析内容、論理的思考、問題解決能力などを総合的に判断する。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

デザイン情報学科デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』P.53の特例を除く）。

##### ○備考

デザインシステムコース4年次必修科目。

- ・LinuxまたはMacのターミナルの基本操作の基礎的な知識があることが望ましい。レベルに応じてクラス分けをする場合もある。
- ・事前準備ができる場

合は下記の内容をリサーチして作業しておくが良い。

- ・Python の基本操作
- ・Dockerの基本操作
- ・pandas によるデータ操作
- ・matplotlib によるデータ視覚化 ・以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。 ・ macOS, Linux, Windows8 以上のいずれかの OS が動作すること。
- ・ Python などのプログラミングや Web ブラウズが可能な画面サイズとキーボードを備えていること。 ・購入を検討中であれば(MacBook Pro、MacBook Air)を勧める。
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

## 【教材等】

### ○教科書

『Data Points: Visualization That Means Something』 (Nathan Yau 著 Wiley 2013)

### ○学習指導書

『データベース 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

## 【その他】

### 【その他】

#### ○参考文献

- ・『Python によるデータ分析入門 第2版—NumPy, pandas を使ったデータ処理』(Wes McKinney 著、瀬戸山雅人、小林儀匡、滝口開資 訳 オライリージャパン 2018)
- ・『ビューティフルビジュアライゼーション』(Julie Steele, Noah Iliinsky 編、増井俊之 監訳、牧野聡 訳 オライリージャパン 2011) ・『ヤバい経済学 [増補改訂版]』(レヴィット, スティーヴン . D . 著、ダブナー, スティーヴン . J . 著、望月衛 訳 東洋経済新報社 2007) ・『エンジニアの知的生産術』(西尾泰和 技術評論社 2018)
- ・『新しい Linux の教科書』(三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015)
- ・『スラスラ読める Python ふりがなプログラミング』(リプロワークス 著、株式会社ビークラウド 監修 インプレス 2018)
- ・『退屈なことは Python にやらせよう—ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング』(Al Sweigart 著、相川愛三 訳 オライリージャパン 2017)
- ・Web サイト動画: デビッド・マキャンドレス「データビジュアライゼーションの美」 <https://bit.ly/2HEERp3>

○メディア授業[リアルタイム]について:グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	デザインシステム研究						
授業コード	1580	授業科目名	デザインシステム研究			担当者	清水恒平教授
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出のみ） メディア授業 [リアルタイム]						

#### 【授業の概要と目標】

「情報システム基礎」「マルチメディア表現」「メディア環境論」「情報通信ネットワーク」などの科目の学習内容を踏まえ、マルチメディアやネットワークを活用した表現、情報の提示の仕方など、現在は個別に存在している各分野の知識・技術を組み合わせ、デザイン・美術の分野への有効な活用方法を探求することを目的とする。

「卒業制作」の前段階として、課題においては各自が自由にテーマを設定しレポートを作成する。面接授業ではオムニバス形式の講義や実習を行い、その手法を基にテーマの深堀りを行っていく。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、マルチメディア、ネットワークを活用した表現について実務経験を交えて指導する。

#### 【課題の概要】

##### ○通信授業課題

マルチメディアやネットワークを活用した表現、情報提示の仕方など複数の分野にまたがる研究テーマを各自が自由に設定し、文献、資料調査、フィールドワークなどを行い、レポートを作成する。

##### ○メディア授業課題

前半はオムニバス形式の講義や実習を行い、考えをまとめる手法や、レイアウトのシステムを学ぶ。後半はその手法を基にテーマの深堀りを行っていく。発表だけでなく、受講者同士のディスカッションを行う。

\* 課題については、学習指導書『デザインシステム研究 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○通信授業

デザイン、情報学の分野から、興味を持ったテーマを複数選び、その分野に関する調査を行った後、課題レポートを制作する。

##### ○メディア授業

- ・web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
- ・スクーリングの約1週間前にWebキャンパス上でミーティングルームURLと事前連絡を掲載する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・4日間全ての出席が必要。

各日に設定されたテーマに関する講義と課題制作を行う。

※オンラインプラス [中間] —slack 上での中間アドバイス

#### 【成績評価の方法】

通信授業課題とメディア授業課題、および発表・ディスカッションの発言等の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。

##### ○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目。

以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェア、周辺機器を所有するか、もしくは利用できること。

- ・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの

- ・画像の編集作業ができるソフトウェア（Adobe Photoshop）
- ・ページレイアウト用ソフトウェア（Adobe Illustrator、Indesign など）
- ・インターネットに接続して利用できること
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できる。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構わない。最新バージョンを使用すること。

#### 【教材等】

##### ○教科書

『デザイン情報学入門』（日本規格協会 2000年）

##### ○学習指導書

『デザインシステム研究 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	1890	授業科目名	卒業制作			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、福井政弘教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目（デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

#### 【授業の概要と目標】

これまでにデザインシステムコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・Web上のコミュニケーションツール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

#### 【課題の概要】

各自が考えるデザインの領域のテーマを自由に設定し、複数の教員の指導の下に研究し、制作を行う。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

\* 課題については、学習指導書『卒業制作 2024年度』を必ず参照すること。

#### 【授業計画】

##### ○面接授業

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

※オンラインプラス [準備] — Web上のコミュニケーションツールでの計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

※オンラインプラス [中間] — Web上のコミュニケーションツールでの中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

##### ○通信授業

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのももちろんのこと、オンラインでテーマを共有し教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

#### 【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

#### 【履修条件及び履修年次】

##### ○履修年次

4年次

##### ○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・デザイン情報学科デザインシステムコースに在籍していること。
- ・デザイン情報学科デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.053の特例を除く）。
- ・デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

##### ○備考

- ・デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目

- ・オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。
- ・5月頃にWEBキャンパス「学生メニュー」のネットフォーラム上にオンラインプラス実施に関する情報を発信する。5月にはネットフォーラムを確認すること。

#### 【教材等】

○教科書  
なし

○学習指導書  
『卒業制作 2024年度（デザイン情報学科）』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

#### 【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。  
面接授業について：グループワークを行う。